



第7.4.4.225図 (14) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (m)	孔徑 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ピット	給 圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
6										<p>5.27~10.05m: 砂礫径2~170mm程度の花崗岩類、砂岩の角~亜角礫を含む粗粒砂からなる。</p> <p>5.60~7.07m: 砂を挟む。中粒砂主体で塊状。ラミナなどの産層構造は分布しない。径2~3mmの石英粒を少量(5%未満)含む。</p> <p>6.50m以深は締まりが良い。</p> <p>8.01~8.37m: 砂を挟む。</p> <p>9.21~9.66m: 磨食した鉄線を含むモルタル(一部に花崗岩細骨材少量含む)。</p> <p>9.80m付近にモルタルを含む。</p>	<p>100% (00%)</p> <p>50% (00%)</p> <p>0% (00%)</p>																		
7																													
8																													
9																													

第7.4.4. 226図 (2) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D ↳ [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験 (標準貫入)	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)								
11	-0.05	10.05		凝土 花崗岩	灰黄緑	Dg	コア形状	割れ目の状態	変質	10.05~180.00m: 花崗岩 径1~3mmの石英、長石を埋典とする 花崗岩。長石は白濁化することが 多い。 10.05~12.96m: QL 硬さ「C」主体で上掘削10.05~11. 20mと中央部の11.82~12.00mは風化 が進んで硬さ「D」である。 硬さ「C」の区間の一部で割れ目に挟 在物を言まない部分があるが、多く は風化により砂や凝結粘土を脈状に 含む。長石の多くは白濁化している。 10.70~10.80m: 硬さ「C」の硬質岩 片が残留する。 11.20~11.82m: 硬さ「C」主体で挟 在物も少ない。一部で密着度の低い 割れ目を含む。 11.40~11.55m: 割れ目が交差し岩片 化するが、劣化は伴わない。 11.82~12.00m: 上下位よりも軟質化 する。11.97~12.00mは粘土化が進む 。 12.00~12.96m: 硬さ「C」主体であ るが、割れ目沿いに幅1mm程度で薄く 砂状化することが多い。また、各割 れ目は弱くマンガン焼染を受け、面 の一部は黒褐色化する。 12.96~14.62m: D、QL 上掘削と下掘削はD級。中央部はQL級 が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目 は残留しているが、全体に硬質な砂 状化が進み、所々、灰白色の粘土を 径5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状 に含む。 13.64~14.30m: 硬さ「C」の岩片主 体で20~40°の密着度の低い割れ目 が同方向に1~2cm間隔で分布する。 14.22m: 43°で幅1mmの軟質黄褐色粘 土を挟む割れ目は、交差する80°で 幅1mmの石英脈を止めている。割れ目 周辺の岩盤に原岩組織は認められ、 糸刺的な割れ目も存在しない。 14.30~14.62m: 上掘17°で幅1~5mm の軟質赤灰色粘土を挟む割れ目。下 掘50°の割れ目で固まらなく軟質 化しているが、一部に硬さ「D」も残 留する。原岩組織や割れ目はわずか に残留する。所々に幅1~2mmの軟質 灰白色粘土を脈状に含む。 14.62~20.04m: QL 20~40°の割れ目が主体で、割れ目 沿いに風化で砂状化が拡大する部分 も含む。16.49m以深は硬さ「D」主体 、16.49m以深は硬さ「C」主体である	4 10	400+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12				凝土 花崗岩	明褐色	Dg	コア形状	割れ目の状態	変質	12.96~14.62m: D、QL 上掘削と下掘削はD級。中央部はQL級 が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目 は残留しているが、全体に硬質な砂 状化が進み、所々、灰白色の粘土を 径5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状 に含む。 13.64~14.30m: 硬さ「C」の岩片主 体で20~40°の密着度の低い割れ目 が同方向に1~2cm間隔で分布する。 14.22m: 43°で幅1mmの軟質黄褐色粘 土を挟む割れ目は、交差する80°で 幅1mmの石英脈を止めている。割れ目 周辺の岩盤に原岩組織は認められ、 糸刺的な割れ目も存在しない。 14.30~14.62m: 上掘17°で幅1~5mm の軟質赤灰色粘土を挟む割れ目。下 掘50°の割れ目で固まらなく軟質 化しているが、一部に硬さ「D」も残 留する。原岩組織や割れ目はわずか に残留する。所々に幅1~2mmの軟質 灰白色粘土を脈状に含む。 14.62~20.04m: QL 20~40°の割れ目が主体で、割れ目 沿いに風化で砂状化が拡大する部分 も含む。16.49m以深は硬さ「D」主体 、16.49m以深は硬さ「C」主体である	7 10	400+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
13				凝土 花崗岩	明褐色	Dg	コア形状	割れ目の状態	変質	12.96~14.62m: D、QL 上掘削と下掘削はD級。中央部はQL級 が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目 は残留しているが、全体に硬質な砂 状化が進み、所々、灰白色の粘土を 径5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状 に含む。 13.64~14.30m: 硬さ「C」の岩片主 体で20~40°の密着度の低い割れ目 が同方向に1~2cm間隔で分布する。 14.22m: 43°で幅1mmの軟質黄褐色粘 土を挟む割れ目は、交差する80°で 幅1mmの石英脈を止めている。割れ目 周辺の岩盤に原岩組織は認められ、 糸刺的な割れ目も存在しない。 14.30~14.62m: 上掘17°で幅1~5mm の軟質赤灰色粘土を挟む割れ目。下 掘50°の割れ目で固まらなく軟質 化しているが、一部に硬さ「D」も残 留する。原岩組織や割れ目はわずか に残留する。所々に幅1~2mmの軟質 灰白色粘土を脈状に含む。 14.62~20.04m: QL 20~40°の割れ目が主体で、割れ目 沿いに風化で砂状化が拡大する部分 も含む。16.49m以深は硬さ「D」主体 、16.49m以深は硬さ「C」主体である	9 10	400+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
14				凝土 花崗岩	明褐色	Dg	コア形状	割れ目の状態	変質	12.96~14.62m: D、QL 上掘削と下掘削はD級。中央部はQL級 が中石的に分布する。 D級は硬さ「E」で原岩組織や割れ目 は残留しているが、全体に硬質な砂 状化が進み、所々、灰白色の粘土を 径5mm前後の斑点状~幅1~3mmの脈状 に含む。 13.64~14.30m: 硬さ「C」の岩片主 体で20~40°の密着度の低い割れ目 が同方向に1~2cm間隔で分布する。 14.22m: 43°で幅1mmの軟質黄褐色粘 土を挟む割れ目は、交差する80°で 幅1mmの石英脈を止めている。割れ目 周辺の岩盤に原岩組織は認められ、 糸刺的な割れ目も存在しない。 14.30~14.62m: 上掘17°で幅1~5mm の軟質赤灰色粘土を挟む割れ目。下 掘50°の割れ目で固まらなく軟質 化しているが、一部に硬さ「D」も残 留する。原岩組織や割れ目はわずか に残留する。所々に幅1~2mmの軟質 灰白色粘土を脈状に含む。 14.62~20.04m: QL 20~40°の割れ目が主体で、割れ目 沿いに風化で砂状化が拡大する部分 も含む。16.49m以深は硬さ「D」主体 、16.49m以深は硬さ「C」主体である	3 10	400+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

第7.4.4. 226図 (3) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給 圧 (KN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
16			+++++	花崗岩	明褐灰	Dg Vg Eg Wg	Vg Eg	cg dg	δ ε	2 3	15.33~15.43m: 風化による砂状化と熱水変質による粘土化で軟質化著しい。上下端とも35°前後の割れ目がある。 15.73~15.80m: 80°の割れ目沿いに薄くマンガン鉱染を受ける。	10 [10]																
17			+++++	花崗岩	明褐灰	Dg Vg Eg Wg	Vg Eg	cg dg	δ ε	2 3	16.31m: 50°の割れ目沿いに幅5~15mmでやや硬質な白色シルト~粘土を挟む。 16.49m: 35°の割れ目から下位は硬さ「C」主体。一部に密着度の低い割れ目を含む。 16.76~16.87m: 径10~20mmの岩片状を呈する。岩片間は幅1~2mm程度で砂状化する。	17 [10]																
18			+++++	花崗岩	にふい煙	Dg Vg Eg Wg	Vg Eg	cg dg	δ ε	2	17.13~17.31m: 割れ目の一部に幅1~2mmの軟質灰白色粘土を挟む。 17.40~19.00m: 密着度の低い風化割れ目を含む。ハンマーの打撃で割れ目の一部は分離、細片化する。割れ目化し、開口しているものも多い。 17.85~18.00m: 割れ目が交差。一部で径20~30mmに岩片化する。粘土や砂は挟まない。 18.05~18.47m: 珪化変質により石英量が多くなり硬化する。	18 [10]																
19			+++++	花崗岩	明褐灰	Dg Vg Eg Wg	Vg Eg	cg dg	δ ε	2	18.43~20.04m: 一部の割れ目沿いや差込がマンガン鉱染を帯び、黒褐色化するが劣化は伴わない。 18.90m: 50°の割れ目に幅1~5mmの波状褐色砂を挟む。 19.59m: 40°と80°の割れ目が交差し、80°の割れ目は40°の割れ目に止められる。80°の割れ目は19.65mでは幅10mmで砂状化するが、下位に向かって割れ目は閉じていき、砂の挟在物も分布しなくなる。40°の割れ目の細粒部は局所的である。割れ目周辺の岩間に原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。	19 [10]																

第7.4.4. 226図 (4) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値) / 試験	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
21			+	明徳灰 にふい橙	Bg IVg	Bg IVg	Bg IVg	Bg IVg	明徳灰	20.04~20.93m: OM 一部に密着度の低い割れ目を含むが、岩片は堅硬。長石の一部は白濁化するが、希薄質で残留するものが多い。割れ目に挟在物はほとんど分布しない。 20.93~26.70m: OL 45°前後の割れ目が主体。一部で70°~90°の高角度割れ目と交差する。割れ目沿いに薄く砂状化するが、部分的に砂状化が拡大する部分も含む。また、所々、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟む。22.69m以下は硬さ「D」 22.69~23.71mは硬さ「C」。23.71m以下は硬さ「D」が主体で、硬さ「C」主体の間では割れ目に挟在物が分布しないことが多い。 21.14~21.24m: 上端42°, 下端49°の割れ目の間が全体的に風化し、砂状化が進む。酸化、マンガン鉱染が認められる。 21.55~21.65m: 風化による砂状部と硬さ「C」ないし「D」の岩片で砂層状を呈する。 粘土はほとんど伴わない。 21.70~22.40m: 高角度割れ目を主体に、幅1mm以下でごく薄くマンガン鉱染や幅1~3mmの軟質な白色粘土脈が分布する。 22.03~22.65m: 70°~90°で湾曲して連続する割れ目沿いに幅5~10mmで砂状化し、幅1~2mmの軟質粘土脈を伴う。 22.10~22.45m: 一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目沿いが風化する。 22.60~22.64m: 上端60°で幅2~3mmの褐色粘土脈。下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。 22.91~23.49m: 40°前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~60°相交する60°~80°の割れ目を止めることがある。40°の割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。 23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.95m: 80°~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 80°~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。																							
22			+	明徳灰	Dg Vg	Dg Vg	Dg Vg	Dg Vg	明徳灰	22.10~22.45m: 一部に硬さ「C」の岩片を伴う。高角度割れ目沿いが風化する。 22.60~22.64m: 上端60°で幅2~3mmの褐色粘土脈。下端45°で幅1mmの褐色砂に囲まれて軟質化が著しく、一部で幅0.5mmの白色粘土脈を網状に伴う。 22.91~23.49m: 40°前後の割れ目が同方向に分布し、これらに直交~60°相交する60°~80°の割れ目を止めることがある。40°の割れ目の細粒部は、局所的で系統性に乏しい。割れ目周辺の岩盤に劣化が認められない。 23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.95m: 80°~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 80°~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。																							
23			+	明徳灰	Og IVg	Og IVg	Og IVg	Og IVg	明徳灰	23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.95m: 80°~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 80°~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。																							
24			+	明徳灰	Dg Vg	Dg Vg	Dg Vg	Dg Vg	明徳灰	23.45~23.71m: 80°で幅1~3mmの軟質白色粘土脈を挟む。 23.71~24.53m: 軟質化し、硬さ「D」主体。 23.71~23.95m: 80°~90°の高角度割れ目はマンガン鉱染を伴う。 24.06~24.22m: 硬さ「C」主体。 24.37m: 45°で幅2mmの石英脈を挟む。 24.53~26.70m: 硬さ「C」主体。上位よりも割れ目がやや少なくなる。 24.60~24.92m: 80°~90°の割れ目に幅1~5mmのマンガン鉱染で黒褐色砂を挟む。																							

第7.4.4. 226図 (5) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
26			+	花崗斑岩	明褐灰	Cg	IVg	cg	γ 2	25.00~25.81m: 及び 25.00~25.28m: 85~90° の割れ目に幅1~2mmで一部マンガン鉱床で黒褐色化した砂を挟む。一部で風化により軟質化し、硬さ「D」の部分も認められる。	18 [18]	DL'																				
																											25.80m: 以深は割れ目が多く、割れ目沿いに砂状化する部分が多い。					
27			+	花崗斑岩	灰白	[cg VIg	VEg	dg	δ 3	26.70~26.90m: 粘土混じり礫状部 (HJ) 上端43°、下端43°でともに直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅10mm。 26.71~26.90m: 粘土混じり礫状部 (HJ) 上端43°、下端54°でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅150~170mm。 26.80~27.57m: D 27.00m: 以深は砂礫状。27.00m以深はハラけた礫状を呈するが、27.00m以下は深部は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。 27.57~28.12m: DL 28.12~28.14m: 破砕部 28.12m: 粘土状部 (Hc-1) 礫斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m: 礫質砂状部 (Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にふい黄色色を呈する。幅5~7mm。 28.14~29.10m: DL 28.85m: 以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目は直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。 29.10~29.12m: 破砕部 29.10~29.11m: 粘土状部 (Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄色で礫状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリゾン色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。 30.02m: 以深は硬さ「D」。以深は硬さ「G」主体。 29.15~29.60m、30.30~30.56m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱床を受ける。 29.47~29.59m: 網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱床が見られる。	8 [8]	D'																				
																																26.22m: 50°の割れ目は交差する高角度割れ目を止めている。割れ目の細粒部は局所的で連続性に乏しい。
28			+	花崗斑岩	明褐灰	Cg	VEg	cg	γ 2	26.70~26.90m: 破砕部 礫斜43°で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.71m: 粘土混じり礫状部 (HJ) 上端43°、下端43°でともに直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅10mm。 26.71m: 粘土状部 (Hc-1) 礫斜43°で上下端ともに直線的に連続。灰白色を呈する。幅1mm。 26.71~26.90m: 粘土混じり礫状部 (HJ) 上端43°、下端54°でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅150~170mm。 26.80~27.57m: D 27.00m: 以深は砂礫状。27.00m以深はハラけた礫状を呈するが、27.00m以下は深部は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。 27.57~28.12m: DL 28.12~28.14m: 破砕部 28.12m: 粘土状部 (Hc-1) 礫斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m: 礫質砂状部 (Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にふい黄色色を呈する。幅5~7mm。 28.14~29.10m: DL 28.85m: 以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。 29.10~29.12m: 破砕部 29.10~29.11m: 粘土状部 (Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄色で礫状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリゾン色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。 30.02m: 以深は硬さ「D」。以深は硬さ「G」主体。 29.15~29.60m、30.30~30.56m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱床を受ける。 29.47~29.59m: 網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱床が見られる。	6 [6]	DL'																				
29			+	花崗斑岩	明褐灰	Dg	VEg	cg	δ 3	26.70~26.90m: 破砕部 礫斜43°で上下端ともに直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm以下。 26.70~26.71m: 粘土混じり礫状部 (HJ) 上端43°、下端43°でともに直線的に連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅10mm。 26.71m: 粘土状部 (Hc-1) 礫斜43°で上下端ともに直線的に連続。灰白色を呈する。幅1mm。 26.71~26.90m: 粘土混じり礫状部 (HJ) 上端43°、下端54°でやや湾曲して連続。径2~3mmの石英粒、径5~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を20~30%含む。軟質。灰白色を呈する。幅150~170mm。 26.80~27.57m: D 27.00m: 以深は砂礫状。27.00m以深はハラけた礫状を呈するが、27.00m以下は深部は砂状の基質と岩片で形成されていると推定される。 27.57~28.12m: DL 28.12~28.14m: 破砕部 28.12m: 粘土状部 (Hc-1) 礫斜43°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1~3mm。 28.12~28.14m: 礫質砂状部 (Hb) 上端43°で直線的に、下端45~55°で波打って連続。粘土化と砂状化の著しい径3~5mmの岩片からなる。にふい黄色色を呈する。幅5~7mm。 28.14~29.10m: DL 28.85m: 以深は風化し硬さ「D」と軟質化する。割れ目直上位の破砕部のHc-1の粘土と同方向に近い40~60°で分布する。 29.10~29.12m: 破砕部 29.10~29.11m: 粘土状部 (Hc-1) 上端49°で直線的に、下端50°で波打って連続。径1mmの石英粒をこくわずか(5%以下)含む。軟質。上端側は灰白色、中央部~下端側は灰黄色で礫状を呈する。幅5~10mm。 29.11~29.12m: 礫質粘土状部 (Hb) 上端50°、下端45~55°でいずれも波打って連続。径1~2mmの石英粒、径3~5mmの粘土化した岩片を20%程度含む。やや硬質。オリゾン色帯びた灰白色を呈する。幅7~11mm。 30.02m: 以深は硬さ「D」。以深は硬さ「G」主体。 29.15~29.60m、30.30~30.56m: 割れ目沿いや岩芯の一部が弱くマンガン鉱床を受ける。 29.47~29.59m: 網目状の割れ目に白色粘土、マンガン鉱床が見られる。	4 [4]	DL'																				

第7.4.4. 226図 (6) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	試験	原位置試験	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
31			+++++	花崗斑岩	明褐灰	Bg	IVε	cg γ		<p>30.55m付近をはじめ、割れ目沿いに風化で砂状化する部分がある。密着度の低い割れ目、ゆる割れ目が多い。</p> <p>30.58~32.21m: CH</p> <p>堅硬、割れ目の存在物は一部を除き分布しない。割れ目や岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目は殆んど分布しない。</p> <p>31.30m付近は59°、54°の割れ目が交差し、短柱状（コア長5cm前後）に砕けている。</p> <p>31.62~31.66m: 上下端とも50°の割れ目に囲まれ軟質化する。上下端には各々幅2mm、0.5mmの軟質褐色粘土脈を挟む。</p>		CL'																					
32			+++++	花崗斑岩		Bg	IIIε	β		<p>32.11m: 40°の割れ目が幅15~20mmで緑泥石化し、淡緑灰色化する。径0.5mm以下の微細なセリサイトを伴う。</p> <p>32.21~33.09m: CM</p> <p>一部を除き、存在物を挟まない割れ目が主体。密着度の低い割れ目を多く含む。一部では開口している。</p> <p>32.30~32.55m: 割れ目沿いや岩芯の一部がマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。</p> <p>32.53m: 45°で幅2mmの軟質黄褐色粘土を挟み、その上下端には粘土とほぼ直交する割れ目が分布する。</p>		CM																					
33			+++++	花崗斑岩	灰褐	Og	IVε	γ		<p>33.09~34.20m: CL</p> <p>60~90°の高角度割れ目が多く、一部で分岐~取れんを繰り返す。これらの割れ目はマンガン鉱染や幅1~2mmの軟質な灰白色粘土を脈状に伴うことが多い。</p> <p>また、風化による砂状化が拡大する部分もある。33.70m以深は厚さ「C」の岩片も多く含む。</p>		CL'																					
34			+++++	花崗斑岩		Dg	Vε	cg δ		<p>34.20m: 40°で幅2~3mmのやや硬質な灰白色粘土脈を挟む。</p> <p>34.20~35.94m: CM</p> <p>殆どどの割れ目にも挟在物は分布しないが、岩芯の一部も含め、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。密着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。白濁化した炭石が多い。</p>		CM																					

第7.4.4. 226図 (7) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
36			+++++	花崗斑岩	灰褐	Og IV _g	IV _g	γ	γ		35.31m: 60° の割れ目沿いに幅3~5mが砂状化する。 35.47m: 5° の割れ目で90° の割れ目が止められる。5° の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 35.94~37.30m: CH 堅硬。割れ目に挟在物は分布しない。 36.07~36.32m: 割れ目沿いや岩芯の一部でマンガン鉱染を受けるが、劣化は伴わない。密着度の低い割れ目が区間内に数本分布する。	8 [10]	100 [400]	CH'																					
37			+++++	花崗斑岩	にんじろ褐	Og IV _g	IV _g	γ	β	2	37.03m: 57° の割れ目沿いの一部で幅3mm前後が砂~細片化する。57° の割れ目を横断する薄層割れ目が37.05m, 37.06mに見られる。57° の割れ目の砂~細片化部は連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織は認められ、系統的な割れ目も存在しない。 37.30~37.55m: CM 直上位に比べ、岩片がやや軟質化する。 37.55~37.69m: CL 上下端をマンガンを囲まれ軟質化が速む。マンガンは砂状を重する。 37.69~37.81m: D 50~60° の割れ目沿いに風化で砂状化が速む。幅1mm以下の白色粘土脈も伴う。 37.81~38.50m: CL	16 [16]	100 [400]	CL'																					
38			+++++	花崗斑岩	灰褐	Og IV _g	IV _g	γ	δ	3	38.21m以深は50° 前後の割れ目沿いに風化、砂状化速む。また、少量の幅1~2mmの白色~褐色軟質粘土脈も伴う。 38.50~39.14m: CM 一部で砂岩割れ目を含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分層・細片化しない。	10 [10]	100 [400]	CM'																					
39			+++++	花崗斑岩	灰褐	Bg IV _g	IV _g	γ	γ	2	39.14~40.79m: CL 密着度の低い割れ目を多く含む。ハンマーの打撃で大半は分層・細片化する。割れ目には砂や粘土を幅1~3mで挟むことが多い。	10 [10]	100 [400]	CL'																					

第7.4.4.226図 (8) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標 尺 (m)	標 高 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	岩 種 区 分	色 種 調 区 分	硬 軟 状 態	割 裂 目 の 形 状	変 質 化 質	記 事	コア採取率 (%)		岩 級 区 分	孔内水位 (m) 測定月日	試験 (標準貫入)					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kW・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)										
										R	Q			D	(N)	(N)	(N)	(N)											(N)	(N)								
41			+++++	花崗斑岩	灰褐	Og IVg	cg	γ	40.14~40.26m: 50~60° の割れ目に幅1~2mmの軟質粘土層を挟む。 40.42m以深は岩片自身の軟質化が進み、割れ目沿いの砂状化も拡大する。 40.72m: 50° の割れ目に幅1mmの軟質灰白色粘土を挟む。 40.79~41.83m: CM 一部の割れ目を除き、割れ目に挟む物は分布しない。	11 (11)	0	OL'																										
42			+++++	花崗斑岩	明褐灰	Og IVg	cg	γ	41.30m以深は密度の低い割れ目が多い。一部では開口化する。 41.30m: 60° の割れ目沿いに径2~4mmの石英が多く露出している。	9 (9)	0	CM																										
43			+++++	花崗斑岩	明褐灰	Eg IVg	cg	γ	41.83~41.95m: D 上端60°、下端55° の割れ目に固まれば砂状化する。割れ目と原岩組織は不明瞭である。 41.95~42.78m: OL 割れ目は直下の破砕部の上端境界と同方向の40~50° の割れ目が主体。割れ目の多くに粘土層や砂の薄層を挟む。長石の一部が白濁化している。 42.36~42.40m: 上下端とも40° の割れ目に固まって風化・砂状化する。	8 (8)	0	OL'																										
44			+++++	花崗斑岩	明褐灰	Og IVg	cg	γ	42.78~42.85m: D 風化で著しく軟質化するが、原岩組織や割れ目の一部は残存する。 ●42.85~42.91m: 破砕部 42.85~42.87m: 粘土混じり砂状部 (H) 上端45° で直線的に、下端41° で波打って連続。径1~2mmの石英粒、径5mmの粘土化した岩片主体。やや硬質。上端の幅1~2mmは風化で明褐色を呈し、明褐色の粘土をフィルム状に伴う。全体としては灰白色を呈する。幅15~25mm。 42.87~42.91m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端41°、下端66° でいずれも深打って連続。下端は不明瞭な部分もある。径5~10mmの粘土化~硬さ [D] 岩片からなり、岩片間の一部は粘土~幅1mmの白色軟質粘土層が分布している。明褐色を呈する。幅20~30mm。 42.91~43.00m: D 硬質な砂層状を呈する。原岩組織と割れ目は消滅する。白色粘土を脈状に伴う。 43.00~43.17m: OL 割れ目沿いに砂状化する。白色粘土を脈状に伴う。 43.17~45.66m: CM 硬さ [C] を主体とするが、一部に硬さ [B] の堅硬な柱状コアも含む。割れ目の一部に幅1~2mmの粘土、砂の薄層を挟み、挟まない割れ目が主体。面は薄く褐色化するものが多いが、劣化はない。一部で粘着割れ目を含むが、密着度は高くハンマーの強打でも分離しないものが主体。	10 (10)	0	CM																										

第7.4.4.226図 (9) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 (孔内水位変動)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
46			+++++	花崗斑岩		Cg IVg	bg γ	γ	2	45.00~45.40m: 80~90°の高角度割れ目が連続、交差する割れ目の一部は高角度割れ目で止められる。高角度割れ目は、凹凸が顕著であるが、面のかみ合わせは良い。細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.41~45.50m: 割れ目が交差し、一部径5~20mmに片状化するが、砂や粘土は挟まない。 45.66~46.14m: CL 風化で割れ目沿いに細片化~砂状化が拡大する。45.99m以下は硬さ「C」の硬質岩片も多く含む。少量の軟質白色粘土も脈状に挟む。	7 10	CM'																				
47			+++++	花崗斑岩		Bg IVg	bg γ	γ	2	46.14~47.58m: CM 堅硬であるが、長石の多くは白濁化し、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。 47.00~47.25m: 割れ目沿いや岩芯の一部が強くマンガン鉄染を受ける。 47.24~47.29m: 上標35°、下標23°の割れ目とほぼ同方向に径5~10mmに片状化する。岩片自身は硬さ「C」]「B」と硬い。 47.58~47.77m: CL 35~45°の割れ目が多く、割れ目沿いに幅2~5mm程度で砂状~細片状化する。 47.77~48.61m: CM 堅硬で長石の白濁化も少ないが、一部で密着度の低い割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。	11 11	CM'																				
49			+++++	花崗斑岩		Cg IVg	cg δ	δ	3	48.61~56.69m: CL 硬さ「C」と「D」が交互に分布する。密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。割れ目沿いに幅10~30mm程度で風化による砂状化が進む部分もある。 48.61~50.56m: 硬さ「C」主体で、49.49m・40°の幅15mm、50.18m・35°の幅30mmで砂状~細片状化が進む。灰白~褐色粘土も伴う。 48.78~48.79m: 上標38°、下標50°の割れ目に幅10mmの砂状~細片状部を挟む。明褐色粘土を伴う。	6 10	CL'																				

第7.4.4.226図 (10) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変風	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
											最大コア長 cm	R Q D [%]			(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	(N) 値																						
51			+++++	明褐灰	Dg	Dg	Vg	δ	3	50.00~50.42m: 70°前後の風化した 微細な割れ目が数センチながら連 続する。一部はハンマーの強打で分 離する。 50.56~51.16m: 硬さ「D」主体で、3 0~50°の割れ目が多く、割れ目沿い に幅1~3mmで薄く砂状化すること が多い。岩片自身も上下位に比べ軟質 化する。 51.16m, 51.45mの35°, 49°の割れ 目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。 51.16~52.00m: 硬さ「C」主体。 51.35~51.64m: 割れ目が交差し、交 差部では砂状部が拡大している。ま た、白色粘土も少量伴う。	4	(100)+																											
											4	(100)+																											
											6	(100)4DL																											
52			+++++	花崗斑岩	Dg	Dg	IVg	γ	2	52.00~52.32m: 径10~20mmの硬さ「 D」 「C」の岩片と岩片間の硬質な砂 状部からなる。 52.32~52.75m: 白濁化した厚石が多 いが、硬さ「C」と硬質。一部で硬さ 「B」も含む。一部では密着度の低い 割れ目も含む。	6	(100)4DL																											
											6	(100)+																											
53			+++++	明褐灰	Dg	Dg	Vg	δ	3	53.10~55.82m: 密着度の低い割れ目 が多く、一部で開口化する。割れ目 の一部は砂状化し、白色粘土を伴う ことが多い。褐色を帯びる。 53.40~53.60m: 硬さ「B」に近い。 割れ目に挟在物は殆んど分布しない。 53.79~53.81m: 上端23°、下端39° の割れ目の間が砂状~細片状を呈す る。 53.85~54.31m: 挟在物を伴う割れ目 は少ない。	6	(100)+																											
											6	(100)+																											
54			+++++	にふい橙	Dg	Dg	Vg	bg	cg	54.35~54.59m: 割れ目沿いや岩芯の 一部が弱くマンガン鉱染を帯び、黒 褐色化する。	5	(100)+																											
											5	(100)+																											

第7.4.4.226図 (11) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	形状	割れ目の状態	風変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水位 標準)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
56			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Cg	Vg	cg δ		55.08~55.55m: 割れ目沿いに砂状化が進み、砂や粘土を挟むことが多い。 55.08m: 25°で幅1mmの淡黄色粘土を挟む。粘土直下に幅10mmの砂状部を伴う。 55.82~56.69m: 挟在物を伴わない割れ目が多い。 56.00~56.30m: 73~90°で湾曲して延びる高角度割れ目を境として、下半分側は塊状~岩片状を呈する。	3 (0)	CL'																					
57			+++++	花崗斑岩	灰黄褐	Eg				●56.69~56.72m: 破碎部 (HJ) 56.69~56.72m: 粘土混じり岩片状部 上端30°で波打って、下端31°で直線的に連続。径3~10mmの硬さ (D) 主体の岩片と岩片間の一部の砂状~粘土化部からなる。下位のHc-1の粘土の近傍では、それに平行~ほぼ平行な微細割れ目も分布する。浅黄~黄灰色を呈する。幅20mm。 56.72m: 粘土状部 (Hc-1) 56.72m: 上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をわずかに (5%以下) 含む。軟質。淡黄色を呈する。幅1mm。 56.72~57.29m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大し、一部で砂塊状を呈するが、原岩組織や割れ目の一部は残留する。 56.94~56.97m, 57.00~57.02m: マンガン鉱染により黒褐色化する。 57.29~58.09m: CL	2 (0)	D'																					
58			+++++	花崗斑岩	灰 褐	Dg	Vg cg δ 3	cg δ		58.08m・10°で幅1~3mm, 58.82m・45°で幅7mmの石英脈が分布する。 ●58.89~58.98m: 破碎部 (HJ) 58.89~58.94m: 粘土混じり岩片状部 (HJ) 上端20°で直線的に、下端25°で波打って連続。20~30°とこれに直交~斜交する割れ目で径3~5mmの細片化し、硬さ「E」主体の岩片と、岩片間の一部に淡黄~灰白色軟質粘土を挟む。塊灰色を呈する。幅40mm。 58.94~58.96m: 粘土混じり砂状部 (HJ) 58.96~58.99m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜25°で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒。硬質岩片を5~10%含む。軟質。幅15mm。 58.89~58.69m: CL 58.50m以深は粘土を挟むことが多い。 ●59.69~59.75m: 破碎部 (Hc-1) 59.69m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜52°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片はほとんど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m: 砂混じり岩片状部 (HJ) 上端52°、下端37°でともに直線的に連続。径5~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい橙褐色を呈する。幅40~60mm。 59.75~60.00m: CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	3 (0)	CL'																					
59			+++++	花崗斑岩	橙	Eg	Vg dg	cg		傾斜25°で上下端ともに波打って連続。径2~4mmの石英粒。径5mmの硬さ「D」。岩片からなる。やや硬質。にぶい黄褐色を呈する。幅15mm。 58.96~58.99m: 砂混じり粘土状部 (Hc-2) 傾斜25°で上端は波打って連続。下端は直線的に連続。径2~3mmの石英粒。硬質岩片を5~10%含む。軟質。幅15mm。 58.89~58.69m: CL 58.50m以深は粘土を挟むことが多い。 ●59.69~59.75m: 破碎部 (Hc-1) 59.69m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜52°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片はほとんど含まない。軟質。黄褐色を呈する。幅1mm。 59.69~59.75m: 砂混じり岩片状部 (HJ) 上端52°、下端37°でともに直線的に連続。径5~20mmの硬さ「D」「E」岩片と岩片間の砂状部からなる。粘土は分布しない。にぶい橙褐色を呈する。幅40~60mm。 59.75~60.00m: CL 挟在物を伴う割れ目は少ない。	2 (0)	CL'																					

第7.4.4. 226図 (12) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水平 方位)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)			
61			+++++	花崗斑岩	灰褐色	Dg IVe	bg	γ	2	60.00~61.40m: CM 密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を多く含む。挟在物を伴う割れ目は少ない。各割れ目と岩芯の一部は弱くマンガン鉱染を受ける。	5	5	CM																	
																												61.18~61.23m: 上端30°、下端33°の割れ目の上下端は透打っている。一部砂状化する。マンガン鉱染が見られる。		
62			+++++	花崗斑岩	灰褐色	Dg Vg eg	eg	δ	3	61.40~61.67m: DL 割れ目沿いに砂状化が進む。 61.47~61.51m: マンガン鉱染により黒褐色化する。 61.67~62.23m: CM 岩片の一部は堅硬な硬さ「B」も含む。割れ目に挟在物はないが、弱くマンガン鉱染を受ける。劣化は伴わない。	3	3	DL																	
																												62.23~64.52m: DL 硬さ「D」と「C」が繰り返して分布する。全体に割れ目に砂や粘土層などの挟在物を含むことが多い。硬さ「D」の区間は割れ目沿いに砂状化が拡大する部分もある。		
63			+++++	花崗斑岩	灰褐色	Dg Vg	eg	δ	3	62.82~62.93m: 径5~20mmの硬さ「D」の岩片と岩片間は砂状化し、砂濺状を呈する。幅1~2mmの軟質白色粘土脈も伴う。 63.03m: 30°の割れ目沿いに幅約10mmの淡褐色粘土。幅1~2mmの淡黄色粘土を挟む。上端側は幅5~15mmでマンガン鉱染を受ける。 63.04~64.17m: 硬さ「C」区間で、硬さ「B」も多く含む。	5	5	DL																	
																														64.17~64.52m: 割れ目沿いに砂状化することが多く、割れ目が不明瞭になり、消滅しかかっていることも多い。原岩組織は明確に露出する。
64			+++++	花崗斑岩	灰褐色	Dg IVe	bg	γ	2	64.52~66.30m: CM 65.61m以深は硬さ「B」で堅硬となる。全体として割れ目に挟在物は少ない。一部の割れ目沿いでマンガン鉱染を強く受け、黒褐色化するが、劣化は伴わない。 64.66m: 63°の割れ目に幅1~2mmの灰白色粘土を挟む。 64.78~64.84m: 上下端45°の割れ目間及び周辺が明瞭な灰色を呈する。マンガン鉱染が見られる。一部砂状化する。	4	4	CM																	

第7.4.4.226図 (13) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (室内水立機) 試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
												→ 最大コア長 (cm)	→ R Q D [%]			(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図																			
66			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Cg	IVg	bg	γ			65.19m : 38° の割れ目沿いに幅10mmで軟質化が進む。薄い砂状部を挟む。 65.34m : 35° の割れ目沿いに幅25mmの硬質な珪質部を伴う。緑泥石による淡緑灰色化及びマンガンによる黒褐色化するが、劣化は伴わない。 65.59m : 35° の割れ目沿いに幅20mmが砂状化～径5mmの鱗片化する。 65.61m : 35° の割れ目を境として以深は堅硬となる。 66.09m : 55° の割れ目沿いに砂状化部を挟む。マンガン鉱染も伴う。	7	(0)	CL																					
													0	50																						
67			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Cg				2	66.37~66.40m : 割れ目沿いに幅30~40mmの淡緑灰色の緑泥石化する。砂～粘土化部など劣化は伴わない。 66.39~68.06m : CL 割れ目には砂を主体とした挟在物が多い。一部で割れ目沿いの砂状化が拡大する部分もある。密着度の低い褐色化した風化割れ目も多く、ハンマの軽打で分離・鱗片化することが多い。 66.80m : 51° の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。 66.99m : 63° の割れ目に幅2~3mmの灰白色粘土を挟む。 67.12m : 55° の割れ目沿いに幅5mmで白色シルト状部を挟む。割れ目面は褐色化する。 67.30~67.70m : 60~90° の高角度割れ目に囲まれて径10mm前後で岩片化する。岩片間の一部は幅2~3mmで砂状化する。	8	(0)	CL																						
												0	50																							
68			+++++	花崗斑岩	明褐色	Eg	Vg	cg	δ			68.06~68.93m : D 強風化で砂状化が拡大。径10~20mmの硬さ「D」「C」の残留岩片とともに砂礫状を呈する。 68.40~68.60m : 硬さ「D」の岩片がらなる。	2	(0)	D																					
													0	50																						
69			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Cg				3	68.83~70.10m : CL 30° 前後の割れ目が主体で割れ目沿いに砂状化の砂を挟むことが多い。一部は幅10mm程度に砂状化が拡大している。幅1mm程度の軟質白色粘土脈も伴う。 砂状化が進む部分では硬さ「D」主体である。 69.22m : 45° の割れ目に幅1~2mmの褐色粘土を挟む。 69.70m : 以深は一部の割れ目と岩芯に弱くマンガン鉱染を受ける。	4	(0)	CL																						
												0	50																							

第7.4.4. 226図 (14) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内全断面)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (m)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
71			+++++	明礬灰	Cg				γ 2	2	70.10~71.72m: D 風化と変質で著しく軟質化するが、原岩組織と割れ目は残留する。所々に硬さ「D」の岩片が残留し、71.30m以深は岩片量が多くなる。 70.17~70.20m: 25°で波打ってマンガングが脈状に分布し、黒色を呈する。下端側は幅10mmで硬化した緑泥石化部を伴う。 70.20~71.30m: 粘土化ないし砂状化新主体。幅1mmの白色粘土脈が網状に分布する部分もある。	2 (0)	DL'																					
72			+++++	明礬灰	Eg						71.72~72.65m: DL 径10~20mmの硬さ「D」の岩片からなり、一部の岩片間では粘土化~砂状化部を伴う。全体に密着度の低い割れ目や砂着割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化する。 72.12~72.17m: 30°の割れ目沿いに褐色化し、砂状化も拡大する。	2 (0)	DL'																					
73			+++++	花崗斑岩	Dg				δ 3	3 (0)	72.65~73.38m: D 72.93~73.11m: 強変質で原岩組織と割れ目は消滅し、細砂状を呈する。上記区画以外は原岩組織と割れ目の一部は残留する。また、硬さ「D」の岩片も一部で残留する。 73.18~73.19m: 20°の割れ目沿いに幅10~15mmでマンガングが脈状に分布する。 73.38~76.23m: DL 一体的には軟質化の進んだ硬さ「D」の岩片も含むが、全体的には軟質化の進んだ硬さ「D」の岩片主体。 73.38~73.58m: 硬さ「C」で一部の割れ目に軟質な幅1~3mmの灰白色粘土脈を挟む。	3 (0)	DL'																					
74			+++++	灰礬	Dg					5 (0)	74.04m: 25°の割れ目沿いに幅約20mmで軟質化が進む。 74.29~74.48m: 20~30°の割れ目沿いに褐色化とマンガング脈を伴う。細かい密着度の低い割れ目も密集する。 74.72~74.84m: 硬さ「C」主体であるが、密着度の低い割れ目も多い。 74.90m: 33°の割れ目沿いに幅10mm程度が砂状化する。	5 (0)	DL'																					

第7.4.4.226図 (15) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変風	記	コア採取率 → (%) → cm → R Q D → [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 (図)	原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
76				灰褐色	Dg	Vg eg			3	75.05~75.56m: 割れ目の一部に幅1~2mmの白色軟質粘土を脈状に挟む。 75.46m: 0°で幅3~5mmの珪質部が斜交する割れ目を上めて連続する。粘土化などの劣化は伴わない。珪質部の上端・下端の割れ目に細粒部は認められない。珪質部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、珪質部と系統的な割れ目も存在しない。 75.80~75.87m: コアチップ引上げ時の擾乱により径10mm前後の礫状コアを呈する。 76.11~76.23m: 10~20°の低角度割れ目が多い。一部で幅0.5mmの灰白色粘土を挟む。 76.23~76.59m: D 76.41m以浅は径3~5mmに細片化する。粘土化も伴う。 76.41m以深は大半の割れ目が消滅する。割れ目跡に沿ってマンガンが斑点状に分布する。 76.59m: 粘土状部 (He-1) 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわず(5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質礫状部 (Hh) 上端47°で、下端55°とともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHe-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。 76.65~76.89m: 幅40~50mm。灰白~にぶい褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端37°とともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHe-1の粘土と平行方向に各々55°・33°のせん断面が分布する。一部でマンガン脈を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。 76.89~76.95m: 硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目治いに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかつているものもある。 77.00~80°の高角度系を主体に、密度度が低い割れ目も多い。 77.58~77.65m: 径10mm前後の大型の石英斑島が点在。径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.71~77.77m: 径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.79~77.85m: 硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15~85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30°の低角度系が主体である。42°・下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。	7 [0]	OL'																							
77				にぶい橙	Eg	Vg eg			4	76.59~76.65m: 粘土状部 (He-1) 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわず(5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質礫状部 (Hh) 上端47°で、下端55°とともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHe-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。 76.65~76.89m: 幅40~50mm。灰白~にぶい褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端37°とともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHe-1の粘土と平行方向に各々55°・33°のせん断面が分布する。一部でマンガン脈を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。 76.89~76.95m: 硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目治いに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかつているものもある。 77.00~80°の高角度系を主体に、密度度が低い割れ目も多い。 77.58~77.65m: 径10mm前後の大型の石英斑島が点在。径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.71~77.77m: 径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.79~77.85m: 硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15~85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30°の低角度系が主体である。42°・下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。	2 [0]	D'																							
78				明褐色	Dg	Vg eg			3	76.59~76.65m: 粘土状部 (He-1) 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわず(5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質礫状部 (Hh) 上端47°で、下端55°とともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHe-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。 76.65~76.89m: 幅40~50mm。灰白~にぶい褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端37°とともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHe-1の粘土と平行方向に各々55°・33°のせん断面が分布する。一部でマンガン脈を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。 76.89~76.95m: 硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目治いに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかつているものもある。 77.00~80°の高角度系を主体に、密度度が低い割れ目も多い。 77.58~77.65m: 径10mm前後の大型の石英斑島が点在。径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.71~77.77m: 径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.79~77.85m: 硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15~85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30°の低角度系が主体である。42°・下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。	8 [0]	OL'																							
79				明褐色	Eg	Vg eg			3	76.59~76.65m: 粘土状部 (He-1) 傾斜47°で上下端ともに直線的に連続。径1mmの石英粒をこくわず(5%以下)含む。軟質。明黄褐色を呈する。幅1mm。 76.59~76.65m: 粘土質礫状部 (Hh) 上端47°で、下端55°とともに直線的に連続。マンガン鉱染で黒色化した径1~2mmの石英粒。径3~10mmの粘土化~硬さ「D」岩片を計20~30%含む。軟質。上端側のHe-1の粘土とほぼ平行な細かい割れ目が4条分布する。 76.65~76.89m: 幅40~50mm。灰白~にぶい褐色を呈する。幅40~50mm。 76.65~76.89m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55°で、下端37°とともに直線的に連続。径3~10mmの硬さ「D」粘土化した岩片と岩片間の粘土化部からなる。76.70mと76.78mに破砕部上端側のHe-1の粘土と平行方向に各々55°・33°のせん断面が分布する。一部でマンガン脈を伴う。にぶい橙~灰白色を呈する。 76.89~76.95m: 硬さ「D」の岩片主体であるが、部分的に硬さ「C」も含む。割れ目治いに粘土化と砂状化が進む。特に上位の破砕部直下の76.89~77.00mで粘土化が進む。割れ目はシャープで明瞭なものも多いが、一部で消滅しかつているものもある。 77.00~80°の高角度系を主体に、密度度が低い割れ目も多い。 77.58~77.65m: 径10mm前後の大型の石英斑島が点在。径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.71~77.77m: 径5~10mmで細片状~硬質な砂状を呈する。 77.79~77.85m: 硬さ「C」と硬化する。 78.05m以深は白色粘土細脈の分布が多くなる。 79.15~85.03m: D 主として変質による粘土化が進み、著しく軟質化している。一部で径5~20mm程度の硬さ「D」の岩片が残留する。全体に原岩組織と割れ目の一部は残留する。割れ目は10~30°の低角度系が主体である。42°・下端39°の割れ目の間は、岩片状~一部砂状を呈する。	4 [0]	D'																							

第7.4.4.226図 (16) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水深観測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
— 81			+++++	花崗斑岩	明褐灰						80.24~80.31m: 礫1mm、長さ10~20cmの細脈状にマンガンが密集する。80.36m以深は礫さ「E」「D」(一部「C」)の岩片と、岩片間の粘土化部がなる。	5 0	5 0																		
— 82			+++++	花崗斑岩	明黄褐						80.76~81.68m: 割れ目や岩芯の一部がマンガン結集を受ける。	4 0	4 0																		
— 83			+++++	花崗斑岩	明褐灰						81.70~82.40m: 岩片間の基質の一部で風化、褐色化が進む。 81.90~84.40m: 表面がマンガンで黒色化した径1~2mmの石英結が点在する。	3 0	3 0																		
— 84			+++++	花崗斑岩	明黄褐						83.30~83.74m: 礫さ「C」の硬質岩片が多く残存する。岩片間の砂状~粘土化部が風化で褐色化する。	3 0	3 0																		
			+++++	花崗斑岩	灰褐						84.06~84.55m: 10~20°の割れ目沿いに風化で褐色化する。礫さ「D」の岩片が主体。 84.55~84.89m: 砂状化が拡大する。軟質粘土も伴う。岩片部分を除き、原岩組織は消滅する。	3 0	3 0																		
			+++++	花崗斑岩							84.89~85.61m: CL一部に礫さ「C」の岩片も含むが、割れ目沿いに砂状化する。																				

第7.4.4.226図 (17) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位置試験 (孔内水深 電)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
86	-54.59	87.18		花崗斑岩	灰褐色	Dg					85.28~85.32m: 綠泥石化し、淡綠灰色を呈する。径0.5mm以下の微細なセリサイト、黄鉄鉱を伴う。 85.36~85.60m: 高角度割れ目沿いの砂状化が進む。 85.61~91.35m: D 種さ「D」「C」の岩片と岩片間の粘土化~砂状化部からなり、全体として軟質化が著しい。 85.70m: 15°の割れ目沿いが褐色を呈し、マンガン鉱害が見られる。	3 (0)	CL'																
87	-54.83	87.52		コア欠如							87.18~91.35m: 強風化による砂状化が拡大し、残留する硬さ「C」「D」の岩片とともに砂堆積を呈する。 87.18~87.52mの基質部はスライムである。	2 (0)	D'																
88				花崗斑岩	明褐色	Vg dg					88.10~89.05m: 残留する岩片量が多くなり、割れ目も認識できるようになる。	3 (0)	D'																
89				花崗斑岩		Vg dg					89.05~90.14m: 岩片のみ採取され、基質の砂状~粘土状部は掘進時に流失したものと推定される。	3 (0)	D'																

第7.4.4.226図 (18) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	試験	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
96			+++++	花崗斑岩	灰褐	Cg		γ		95.50~95.71m: 割れ目から分離し、径10mm前後に細片化する。 95.94~98.05m: 硬さ「D」の岩片状コア主体。所々に硬さ「C」も含む。 95.96m: 60°の割れ目に幅1mmの灰白色軟質粘土を挟む。上端側の幅約5mmにマンガン鉱染部を伴う。	2 (0)																					
97			+++++	花崗斑岩	明褐灰	Vg			3	96.52~97.60m: 30~40°と60~70°の割れ目が交差し前者が後者に止められる。60~70°の割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められる。 97.07m: 15°で幅2~3mmの石英脈を挟む。劣化は伴わず密着する。	2 (0)																					
98			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Dg		cg		97.58~97.69m: マンガン鉱染が進み黒褐色化する。 97.69~97.78m: 硬さ「C」の岩片中に硬質な幅1~2mmの白色粘土が脈状~径2~3mmの斑点状で分布する。 98.02m: 30°で幅2~5mmの石英脈を挟む。一部で褐色割れ目化する。 98.05~98.92m: 硬さ「C」主体。割れ目の面は褐色化するものが多い。割れ目沿いに軟質化する部分もある。 98.20m: 50°の割れ目に幅3~5mmの褐色粘土を挟む。	6 (0)																					
99			+++++	花崗斑岩	灰褐	Dg Vg		γ 2		98.92~99.50m: 硬さ「D」主体。全体に軟質化するが風化。変質は弱い。 ●99.50~99.68m: 破砕部 (Hj) 99.50~99.56m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端43°で直線的に、下端38°で波打って連続。上端とほぼ平行な数本の割れ目と、これに直交~60°斜交する割れ目で径5~10mmの硬さ「E」の岩片に細片化する。岩片間に幅1~3mmの白色軟質粘土が脈状に分布する。一部にマンガン鉱染部を伴う。明黄褐色を呈する。幅45mm。 99.55mには上端と平行で直線的な幅1mmの灰白色粘土を挟む。 99.56~99.57m: 隣接しり粘土状部 (Hc-2) 傾斜38°で上下端とも波打って連続。径1~3mmの一部マンガン鉱染で黒色化した石英脈を10%程度含み、フィルム状の細粒部が挟在している。やや硬質。灰白色を呈する。幅5~10mm。 99.57~99.68m: 砂混じり岩片状部 (Hj) 上端38°で波打って、下端37°で直線的に連続。上位のHc-2の粘土と平行な数本の割れ目とこれに直交~60°斜交する割れ目が多く、径5~20mmに岩片化する。岩片間には粘土は殆んど分布せず。砂状部を挟む。マンガン鉱染のため黒色化し、褐色を呈する。幅85mm。 99.68~100.50m: CL 硬さ「D」主体。	7 (0)																					
			+++++		褐灰	Eg Vg		δ ε			2 (0)																					

第7.4.4.226図 (20) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水平電位)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
101				花崗斑岩	にぶい橙	Dg Vg cg				102.00~101.00m: 密着度が低い割れ目~砂層割れ目を多く含む。開口割れ目化するものもある。 101.45~101.78m: 幅1~2mmの白色~黄色粘土が脈状に多く分布する。 101.78~102.56m: QL 硬さ「C」主体で、割れ目沿いに砂や粘土を挟む。 102.56~104.28m: CM 硬さ「B」で堅硬である。挟在物を伴う割れ目は少ない。短柱状~柱状コアには幅1~2mmの白色筋状の砂層割れ目が多く分布するが、ハンマーの強打で分離しない。一部で幅2~3mmで砂状~細片状化部を挟むものもある。 103.24m, 103.48mのいずれも65°の割れ目は交差する割れ目を止め、前者で幅2~3mm、後者で幅2mm程度の砂を挟む。マンガンも伴う。65°の割れ目沿いの砂は局所的で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 103.94~104.00m: 風化で淡褐色化し軟化する。 104.28~105.88m: CM 堅硬で塊状。一部で白い筋状の砂層割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。104.28m, 104.61mに70°の割れ目が分布し、前者は幅2mmの砂を挟み、マンガンも伴う。	5 0	5 0	8 0	12 12	8 0	17 23	DL'	CM'	DL'	CM'													
102				花崗斑岩	灰褐	Cg IVg bg		γ	2																								
103				花崗斑岩	褐灰	Bg	IVg bg		2																								
104				花崗斑岩	褐灰	Cg IVg cg δ		γ																									

第7.4.4.226図 (21) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水圧試験)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)	
106				花崗斑岩	褐灰	Bg	IV _g bg	β		105.14m : 67° の割れ目沿いに風化で薄く褐色化するが劣化は伴わない。 105.33~105.52m : 割れ目沿いに弱くマンガン鉱染を受ける。	18	18																
107				花崗斑岩	にぶい橙	Og	IV _g bg	γ	2	105.88~108.71m : CM 岩片は堅硬であるが、全体に割れ目沿いに風化で褐色化する。砂割れ目も多く、褐色化したものはハンマーの強打で分離・細片化し易い。開口化するものも多い。一部で砂や白色粘土の薄層を挟むが、挟在物のない割れ目が主体。 106.00m, 106.16m, 73° の割れ目が分布し、前者には幅2~5mmの砂を挟み、マンガンを伴う。後者には幅1mmの砂を挟む。 106.32~106.60m : 潜在割れ目が約10mm間隔で密に分布し、全体が軟質化する。一部の潜在割れ目は密着度が低い。	10	10																
108				花崗斑岩	褐灰	IV _g bg	IV _g bg	β		107.30m以深では径2~3mmの緑泥石の薄層灰色斑点が点在する。割れ目の面も緑灰色を呈することが多い。 107.60~108.60m : 径5~10mmの大型のかり長石の斑晶を多く含む。	7	7																
109				花崗斑岩	褐灰	Bg	IV _g bg	β		108.68~108.71m : 割れ目沿いに細片化する。 108.71~112.27m : CM 堅硬・塊状。白い筋状の付着割れ目を多く含むが、大半が周囲と同化し、密着度が高い。ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は分布しない。割れ目沿いはごく薄く風化で褐色化するが劣化はない。	10	10																

第7.4.4.226図 (22) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 図	原位置試験 (孔内水深表参照)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
111				花崗斑岩	褐色灰	IVe	IVe	Bg β		<p>110.11~110.95m: 50~60° とこれに匯交する10~30° の割れ目やゆき割れ目が多い。ゆき割れ目は密着度が高い。前者の割れ目は後者の割れ目の一部を止めており、一部は後者の割れ目が前者の割れ目と横断している。50~60° の割れ目には細粒部は認められない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>111.14m: 76° の割れ目に幅1~2mmの緑泥石粘土~シルトを挟む。径0.1mmの微かなセリサイトも点在する。</p> <p>111.31~111.34m: 割れ目沿いに薄く風化・褐色化する。</p> <p>112.00~112.27m: 70~80° とこれに匯交する20~30° のゆき割れ目が約10mm間隔で密集するが、密着度が高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。</p> <p>112.27~113.27m: CG 堅硬であるが、上下位に比べ割れ目がやややくなる。ゆき割れ目も多く、112.27~112.32mを除き、密着度は高い。割れ目には存在物は分布せず。面も未風化・新鮮なものが主体である。一部の割れ目で緑泥石が幅1mm程度で砂状~シルト状を重する。</p> <p>113.27~114.41m: CH 堅硬。塊状。割れ目は少ないが、70~80° の高角度系が主体。ゆき割れ目も同系統で密着度が高い。</p> <p>114.24m: 80° のゆき割れ目沿いに径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。</p> <p>114.40m以深の割れ目の一部は薄く淡褐色化する。軟質化、粘土化などの劣化は伴わない。</p> <p>114.41~115.12m: CG 70~80° の割れ目が多く、114.89~115.12m間は上端幅5mm、下端幅30mmで砂状化~片状化する。</p>	25, 12, [12], [20], 20, [72], 22, [40]	CH, CH, CH																				

第7.4.4.226図 (23) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 () 試験					原位置試験 (孔内全長)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進深度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)									
											最大コア長 R	最大コア径 Q			(N) 値	(N 値 ~ 深度)	(図)																						
116			+	花崗斑岩	褐灰	Dg Vg	cg γ	β	3	● 115.00~115.12m : 破砕部 粘土混じり礫部 (H) 上端60°、下端80°でいずれも直線的に連続。上下端とも緑灰色のフィロム状粘土を挟む。径10~30mm程度の岩片主体で岩片間に淡黄色粘土を伴う。岩片には定向配列が呈される場合がある。にぶい橙色を呈する。幅30mm。 115.12~116.80m : CM 堅硬で、密着度の高い粘着割れ目が多いが、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 115.90~116.10m : 径5mm前後の橙色のかり長石が多く分布する。	12	34																											
117			+	花崗斑岩	褐灰	Bg Vg	cg γ	γ	2	116.33m : 70~80°で湾曲する割れ目と40°の割れ目が交差する。後者は前者で止められる。面割れ目の一部に幅1mm、交差部に幅5mmの緑泥石砂状~シルト~粘土を挟む。70~80°の割れ目沿いの細粒部は局所的で、割れ目直上の岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。 116.80~117.32m : CM 一部に硬さ「C」を含むが概ね堅硬な一部に硬さ「B」が主体。割れ目が多くなが、粘着割れ目は密着度が強く、ハンマーの強打でも分離しない。長石は白濁化するものが多い。挟在物は分布しない。 117.32~117.39m : CL 75°の割れ目沿いに幅20~25mmが風化で軟質化する。 117.39~118.47m : OH 堅硬。一部で割れ目が多いが、コア長10cm以上の棒状コア主体。白色筋状の粘着割れ目も多いが、大半は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が点在する。割れ目に挟在物は分布しない。 117.65~118.40m : 橙色のかり長石が多く、全体ににぶい橙色を呈する。	25	47																											
118			+	にぶい橙	褐灰	Dg Vg	cg δ			118.20m : 75°、118.46m : 76°の割れ目が見られ、幅1mm程度の緑灰色シルトを挟む。 118.47~119.00m : CM 上位に比べ割れ目が多くなるが、岩片は堅硬(硬さ「B」)で、挟在物は分布しない。長石は白濁化することが多い。	10	10																											
119			+	暗緑灰	暗緑灰	Dg Vg	cg δ	δ	4	119.00~119.11m : CL 風化と変質が進み、全体が軟質化する。 ● 119.11~119.16m : 破砕部 119.11~119.16m : 粘土混じり岩片状部 (H) 上端50°で直線的、下端60°で波打って連続。径5~10mmの角礫状岩片からなり、岩片間は幅1mm以下で白色、幅1~3mmで緑灰色のいずれも軟質粘土を挟む。にぶい橙~暗緑灰色を呈する。幅30mm。 119.16~119.18m : 粘土状部 (Hc-1) 傾斜60°で上端は波打ち、下端は直線的に連続。径1mmの石英をわずかに含む。軟質。緑灰色を呈する。幅7~10mm。 119.18~119.25m : 粘土混じり岩片状部 (H) 上端60°で直線的に、下端43°で波打って連続。上位のHc-1の粘土とはほぼ平行~これと斜交する割れ目で径2~5mmに細片化する。岩片間の一部は幅1mmの緑灰色粘土細脈が多く分布する。暗緑灰色を呈する。幅40mm。 119.25~120.10m : CL 風化で全体が軟質化するが、硬さ「C」の硬質岩片も一部に残留する。割れ目の一部に幅2mmの緑灰色の緑泥石粘土脈を挟む。120.02~120.09mは割れ目沿いに砂状化が進む。	3	3																											

第7.4.4.226図 (24) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	原位置試験 (孔内水位測定)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
—121											120.09~120.10m: 60°で幅10~15mmの線泥石化で軟質化する。 120.10~125.90m: GH 堅硬。塊状。割れ目に挟在物は分布せず。面もほぼ本風化・新鮮である。長石の白濁化は殆んど認められない。	31	64	DL																
											121.60m: ゆ着割れ目が開口割れ目化する。	23	74																	
—122				花崗斑岩	褐灰						122.36m: 65°の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。 122.61m: 60°の割れ目に幅2mmの褐色砂を挟む。	21	76																	
											123.35~125.06m: 80~90°の割れ目が連続する。	26	88																	
—123											123.63~123.67m: 割れ目沿いに片状化するが、岩片は硬質で、砂や粘土化など劣化は伴わない。	20	47																	
—124																														

第7.4.4.226図 (25) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	風変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
126			+			III _E			125.00m以深はゆる割れ目は殆んど分布しない。 125.90~128.05m : CM 堅硬であるが、ゆる割れ目から開口割れ目化したものが多い。割れ目に挟在物は挟まず、圧縮未風化で新鮮である。ほぼ全區間にわたって、60~90°のゆる割れ目沿いに割れ目化し、一部はその周辺が片状化する。	10 79	CH																	
127			+	花崗斑岩	褐灰	Bg IV _E	β	2	127.15~127.58m : 80~90°の開口化したゆる割れ目数本が約10mm間隔で平行に分布する。全幅約50mmにわたる片状化するが、砂状化や粘土化などの劣化は伴わない。 128.05~128.78m : CM 堅硬。128.05~129.00mにゆる割れ目が開口割れ目化した80~90°の割れ目が波打ちながら連続するが、一部を除き片状化は認められない。	13 35	CM																	
128			+						128.78~129.47m : CM 白い筋状のゆる割れ目が多いが、大半は密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。 129.47~129.84m : CL 密着度の低い潜在割れ目が多く分布する。挟在物は殆んど分布しない。	20 34																		
129			+			V _E	γ		129.84~129.91m : 砕砕部 傾斜70°で上端は直線的に、下端は波打って断続的。径1~3mmの石英粒。径2~3mmの岩片を10~20%含む。軟質。緑灰色を呈する。幅2~5mm。一方、上端には暗緑灰色の幅0.5mmのフィルム状粘土を挟む。 129.91~129.97m : 粘土質岩片状部 (HJ) 上端70°で波打って、下端60~70°で少し湾曲して連続。径2~5mmに細岩片化し、岩片間は粘土~砂状化する。粘土量は多い。オリーブ灰色を帯びた灰白色を呈する。幅23~35mm。 129.97~130.57m : Cl 岩片は堅硬であるが、高角度割れ目やゆる割れ目が1~2cm間隔で分布し、片状化する。割れ目沿いで薄く砂状化するものがある。	11 20	CL																	

第7.4.4.226図 (26) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 (孔内水位観測)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
131		+++++	花崗斑岩	灰褐色	Og	Ve	cg	2	130.57~131.51m: CM 白い筋状のゆる割れ目が多いが、密度が高く、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。 130.75~130.90m: 幅0.5~5mmの白色方解石が脈状に分布する。	24	CL'																		
																												21	CM'
132		+++++	花崗斑岩	灰褐色	Bg	bg	β	2	132.41~134.33m: CM 岩片は堅硬であるが、一部で密着度の低い層状割れ目が多く、径30mm前後に分離・細片化する部分もある。ほぼ未風化・未変質で下層部を際き割れ目に存在物は分布しない。 132.76~133.60m: ゆる割れ目沿いに径30mm前後に分離し弱いが、砂や粘土は挟まない。	25	CM'																		
																												5	CM'
133		+++++	花崗斑岩	明オリブ灰	IVe	IVe			133.39~133.85m: 径2~3mmの暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑色化し、明オリブ灰色を呈する。区間全体が緑泥石化する。	11	CM'																		
																												11	CM'
134		+++++	花崗斑岩	灰褐色	IVe				134.33~136.33m: CM 堅硬・塊状で未風化・未変質。ゆる割れ目は少量分布するが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。 134.35m: 70~80°で幅1~2mmの暗緑灰色の緑泥石粘土とその上端に幅15mmの径5~10mmの岩片を持つ。 134.56~134.70m: 緑泥石化により淡緑色化し、オリブ灰色を呈する。 134.85m以深は所々に径10mm前後で褐色のカリ長石が晶出する。	11	CM'																		

第7.4.4.226図 (27) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m)	測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	原位置試験 (孔内不慮)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
136			+++++	花崗斑岩	明褐灰	IV _ε	IV _ε				135.76m: 80°の割れ目は交差する割れ目の一部を止めている。80°の割れ目に細粒部は認められず、割れ目周辺の岩体には脆性組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は幅1~2mmの緑泥石付層、後者は石英脈が密着して分布する。粘土化や砂状化は伴わない。	16 (280) (400) CH'																					
137			+++++	花崗斑岩	灰褐	Bg	Bg β 2				137.52~137.67m: ヘグマタイトで晶洞中に石英、褐色のかり長石、緑泥石などが晶出する。	25 (96) (400) CH'																					
138			+++++	花崗斑岩	緑灰	III _ε	III _ε				138.35m、138.50m: 灼着割れ目沿いに開口割れ目化する。	15 (71) (400) CH'																					
139			+++++	花崗斑岩	灰褐	IV _ε	IV _ε				139.02~139.21m: 緑泥石により緑灰色化する。 139.37m: 70°で幅2~3mmの脈に緑泥石と石英が共生して分布する。径0.1mmの微細な黄鉄鉱も点在する。 139.66~139.96m: CH割れ目がやや多くなる。挟在物は分布しない。 139.96~140.39m: CH	27 (72) (400) CH'																					

第7.4.4.226図 (28) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
141			+	花崗斑岩	緑灰	III _E	III _E			140.13m: 65° の割れ目沿いの一部が細片化するが、軟質化など劣化はない。 140.39~140.61m: CM 70° の割れ目沿いに一部片状化する。砂や粘土は挟まない。 140.61~141.97m: CH 堅硬・塊状。一部でゆる割れ目が多いが、密着度が高く、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離・細片化しない。	13	CH																
142										141.97~147.08m: CM 割れ目はやや多いが、岩片は堅硬。白色粉状のゆる割れ目が多いが、密着度が高い。一部で開口割れ目化する。 142.32~142.43m: 50° 程度の割れ目 が交差し、径20~50mm程度に岩片化するが、砂や粘土は挟まない。 142.70~142.76m: 緑泥石により淡緑灰色を呈する。	16																	
143			+	花崗斑岩	緑灰	IV _E	IV _E			143.48~144.50m: 径3~5mmの褐色の方り底石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。 143.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45° のゆる割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。 144.08~145.44m: 40~60° のゆる割れ目が密着する。多くが開口化し劣い。	14																	
144										144.50~145.44m: 径3~5mmの褐色の方り底石の斑晶が上下位よりも多く晶出する。 144.80~144.00m: 割れ目間隔20~70mmで45° のゆる割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。 144.08~145.44m: 40~60° のゆる割れ目が密着する。多くが開口化し劣い。	10																	

第7.4.4.226図 (29) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
—146			+++++	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVg				145.37m: 50° 割れ目沿いに幅15mmが径2~10mmに細片化するが、岩片は硬質である。砂や粘土は採まない。 145.45m付近、145.90m付近は、60~80°の割れ目が発達する。	11																
																	145.88m: 70°のゆる割れ目沿いに幅約10mmで緑泥石により緑灰色を呈する。	10										
—147			+++++	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVg				146.56~147.08m: 60~70°のゆる割れ目沿いに分離し開口割れ目化する。各割れ目面はほぼ未風化・新鮮で残存物は分布しない。	10																
																	147.08~150.59m: CH 堅硬・塊状。開口割れ目は殆んどがゆる割れ目が開口したものである。残留するゆる割れ目は周囲と同化し、膠着度が高くハンマーの強打でも分離しない。各割れ目面に残存物は殆んど分布せず。未風化で新鮮である。	22										
—148			+++++	花崗斑岩	灰褐	Bg	IVg				148.78m: 65°の割れ目面に幅1mmの緑泥石の塊状な粘土がフィルム状に付着する。	22																
																	149.20~149.36m: 割れ目がやや多いが、劣化は伴わない。	11										
—149			+++++		にらみ褐																							

第7.4.4.226図 (30) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 図	原位置試験 (孔内水平電)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
151			+	花崗斑岩	にぶい褐	IIIg	IIIg			150.04~150.50m: 50~90°で幅0.5m以下の緑泥石脈が多く分布する。大半は原因と同一化し、開口割れ目化していない。 150.41m: 石英脈中に幅10mmの白色岩片を塊状に伴う。 150.59~151.57m: OH 20~40°と70~80°の割れ目が交差し、割れ目がやや多くなる。	15	[39]	CH'																				
152			+	花崗斑岩	にぶい褐	IVg	IIIg			151.21m: 85°の割れ目の一部に幅2mで径2mmの細片化部を挟む。 151.47~151.52m: 緑泥石化と珪化が進み硬化する。 151.50~151.52m: 石英脈に径0.5mmの暗赤褐色鉱物を伴う。 151.57~152.23m: OH 堅硬・塊状。割れ目やゆき割れ目は幅0.5mm程度に緑泥石化するが、ゆき割れ目の大半は密度が高く、ハンマーの打撃で分層・細片化しない。一部は開口化する。粘土や砂は挟まない。	1	[25]	CM'																				
153			+	花崗斑岩	緑灰	Bg	bg β 2			152.23~153.85m: OH 堅硬。塊状で割れ目はわずかに分布する。割れ目に存在物は分布しない。割れ目やゆき割れ目の一部は割れ目沿いに緑泥石化するが層層である。 152.50~152.60m: 上下端を幅10~20mmの石英脈に面された割面に岩片が多数含まれる。岩片に移動や回転は見られない。岩片と基質は同一化し、硬質化する。岩片の輪郭が不鮮明で虫食い状になっており、岩片や石英脈に系統的な配列は見られない。岩片と周辺の珪質、石英脈は完全に砂着する。	43	[90]	CH'																				
154			+	花崗斑岩	にぶい褐	IIg	IIIg			153.20m付近に径10mmの大型の橙色のかり長石の斑晶が存在する。 153.25~153.60m: 60~80°の高角度な白色筋状のゆき割れ目が数本分布するが、密着度が高く、開口化しない。 153.85~154.60m: OH 堅硬。塊状。	36	[95]	CH'																				
154			+	花崗斑岩	緑灰	IIIg	IIg			154.42~154.60m: 緑泥石化が進むが硬質である。上端は30~70°の割れ目が交差し片状化するが、帯状な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂など挟まない。 154.60~156.18m: OH 堅硬。塊状で割れ目は少ない。155.25m以降で60~90°の高角度の白色筋状のゆき割れ目が多いが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。	21	[43]																					

第7.4.4.226図 (31) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変質	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験 (原位置試験 (孔内水平電圧))	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
156			+++++							155.25m: 70~80°の割れ目が交差する一部のゆる割れ目が止まっている。70~80°の割れ目に細粒部は認められない。周辺の岩盤に原岩組織が現われ、系統的な割れ目も存在しない。 155.77~155.80m: 一部で緑泥石化し径30mmの斑状に緑灰色化する。軟質化は伴わない。 156.00~156.14m: 白色筋状のゆる割れ目の一部が剥離しかかっているが、よく密着する。 156.18~159.24m: OH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも含むが、長さ10~20cm (Ⅲ)が主体。割れ目やゆる割れ目の一部は緑泥石化するが、よく密着する。 156.50~156.90m: 18~80°の割れ目が交差し、一部で片状化するが、挟在物は分布しない。	30																					
157			+++++	花崗斑岩	にぶい褐	Bg		bg β 2		157.00m以深は20~40°の割れ目が主体。 157.35~157.89m: わずかに石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。	26																					
158			+++++							157.89~157.89m: 30°程度で径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石が弱く脈状に点在する。 158.20~158.30m: 径10mm前後の大型なかり長石が点在する。	26																					
159			+++++		暗緑灰					158.54mと158.62mに70~75°、幅1~2mmで石英脈が分布する。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟質化は伴わず、堅硬である。 159.24~160.40m: OH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。緑泥石化により暗緑色や白色筋状のゆる割れ目を多く含むが、堅硬で密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。割れ目に挟在物も分布しない。全体に緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈するが、緑泥石化の弱い部分は母岩の褐色が残留する。全体的に色調が斑状を呈する。 159.45m: 60°の割れ目が交差する55°のゆる割れ目を横断する。60°の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	32																					

第7.4.4.226図 (32) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水平 載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
161				花崗斑岩	暗緑灰	II _g	II _g				160.40~161.45m: CM 堅硬、塊状。上下位に比べ割れ目がやや多い。割れ目に挟在物は分布しない。	22	45	OH																		
					緑灰	IV _g						161.10~161.69m: 径5mm前後の大型な暗緑色の緑泥石を斑点状に含む。161.10~161.24mは石基も緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。	18	26	CM																	
162					灰褐	III _g						161.45~166.65m: OH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の柱状コアが主体。一部に幅1~2mmの白色筋状の主に高角度のゆき割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。砂着割れ目には石灰を脈状に挟むものも多い。褐色のかり原石が濃集する部分も含まれる。緑泥石は割れ目やゆき割れ目沿いではほとんど分布せず、径2~5mmの斑点状に露出する。 161.70~161.90m: 60°の割れ目交差部の一部で片状化するが、岩片は堅硬で、粘土や砂を挟まない。 162.12~162.18m: 径10mm前後の大型な褐色のかり原石が点在する。	35	83	OH																	
163				花崗斑岩	灰褐	B _g	bg β 2				163.50~163.60m: 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが、岩片は堅硬で、砂や粘土は挟まない。面の一部に黄鉄鉱が露出する。	37	93	OH																		
164					灰褐	II _g						164.00~164.30m: 径10mmの大型の褐色のかり原石と同径の緑灰色の緑泥石が混在する。 164.50m: 径50mmの石英の晶洞で、長石などの2次鉱物を伴う。	35	100																		
					白						164.94m: 70°の密着割れ目で、上端側に幅20mmの石英脈が緑泥石を伴って分布する。上下境界に劣化はない。 164.95~165.89m: 褐色のかり原石の含有量が上下位に比べ多くなり、にぶい褐色などの褐色系を呈する。																					

第7.4.4.226図 (33) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験 (原位試験 (孔内水平載荷))	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (KN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)			
166				花崗斑岩	にふい橙	IIg	Bg β 2	変質	<p>165.32m ~ 70° の割れ目は165.32mで径8mmの橙色のかり長石を横断する。また、交差する割れ目の一部も止まっている。割れ目に細粒部は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が現れる。系統的な割れ目も存在しない。</p> <p>165.80 ~ 166.10m : 径10 ~ 20mmの石英が多く露出する。一部は軸形の結晶型を示すため熱水変質で緑泥石と共に晶出した2次石英である。</p> <p>166.44 ~ 166.47m : 径10mmの斑状 ~ 長さ20 ~ 30mm、幅5mmのレンズ状で石英が露出する。</p> <p>166.65 ~ 167.21m : OH 一部で高角度割れ目がやや多いが、岩片は堅硬で、粘土や砂などの挟在物は分布しない。</p> <p>167.00m以深は緑泥石化が進み、暗緑灰色を呈する。</p> <p>167.21 ~ 168.22m : CM 白色筋状の付着割れ目が交差し岩片状に砕けているが、岩片は堅硬で、挟在物は分布しない。</p> <p>168.22 ~ 169.60m : OH 堅硬、塊状で、コア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10 ~ 20cmの柱状コアが主体。白色筋状の付着割れ目も含むが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。全体に緑泥石化し、径2 ~ 3mmの暗緑灰色の斑点状に露出して存在する。割れ目や付着割れ目沿いに分布するものは少ない。緑泥石化が強い部分は暗緑灰色を呈する。割れ目に粘土、砂などの挟在物は分布しないが、一部で緑泥石化や黄鉄鉱の露出が認められる。</p> <p>169.19 ~ 169.41m : 緑泥石化が進み、暗緑灰色化する。軟質化は伴わず堅硬である。</p> <p>169.66 ~ 172.69m : OH 堅硬、塊状で割れ目が少ない。一部に白色筋状の付着割れ目が分布するが、密着度が高く、分離しない。169.67 ~ 170.22m : 径2 ~ 3mmの暗緑灰色の緑泥石が斑点状に多く露出する。</p>	46, 98, 63, 21, 34, 40, 25, 18, 43	CH, CM, CH																		
167								暗緑灰	IIIg																				
168								灰褐	Bg																				
169								暗緑灰	IVg																				

第7.4.4.226図 (34) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 (孔内水圧測定)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
171				花崗斑岩	灰褐色	Bg	II _g				170.20~170.65m: 60~70°のゆる割れ目が数本分布するが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。	71 [91]	71																					
					褐色								171.00~171.08m: 径10mmの大型の橙色のかり長石が点在する。	49 [87]																	49			
172				花崗斑岩	灰褐色	Bg	II _g				171.85m: 34°と74°の割れ目が交差するが、交差部周辺は片状化しない。	97 [82]	97																					
					にふい褐色								172.32~172.53m: 径2~3mmの暗緑灰色の燧石が幅0.5~1mmの石英細脈を伴って、斑点状に露出、点在する。	28 [98]																		28		
173				花崗斑岩	にふい褐色	III _g					172.60~174.13m: OH 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが、10~20cmの柱状コアが主体。一部で緑泥石化し、割れ目やゆる割れ目に沿って細脈状~径1~3mmの斑点状に露出する。割れ目面に砂や粘土は挟まない。細脈部に石英を伴うこともある。	62 [100]	62																					
					褐色								173.66~173.73m: 密着度の低い潜在割れ目が10~20mm間隔で分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するが、粘土や砂など挟み物は分布しない。																					
174				花崗斑岩	褐色	II _g					173.99m: 43°の割れ目は径5mmの橙色のかり長石を横断する。また、43°の割れ目と交差する2条の高角度のゆる割れ目が厚られる。割れ目に細細脈は認められず。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。																							
													174.13~175.58m: OH 堅硬、塊状で一部の割れ目交差部でコア長約10cmに片状化するが、コア長20cm以上の長柱状コアが主体。一部に白色筋状のゆる割れ目を含むが、密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。上位側に比べ緑泥石化は顕くなくなる。																					

第7.4.4.226図 (35) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
-176			花崗斑岩	褐灰	Bg	IIg	β				176.15~176.22m: 70°程度の割れ目 が交差し片状化するが、岩片は硬質 で割れ目面に挟在物は分布しない。 176.45~176.71mは片状化するが、コ アチップ引上げ時の撻品による可 能性が無い。岩片は堅硬で挟在物は 分布しない。面の一部は赤褐色化し、 断片的に鱗肌も認められる。赤褐色 部は褐鉄鉱である可能性がある。割 れ目に鱗肌部は認められず、割れ目 周辺の岩壁には原岩組織が認められ る。 176.55~176.50m: OH 堅硬。上下位に比べ割れ目がやや多 いが、コア径10~20cm (III) が主体。 仲着割れ目も進むが、大半は密着度 が高く、ハンマーの打撃で分離しな い。	28 43	CH'																	
-177		176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状 を呈する。 176.59~176.62m: 30°の割れ目沿い に風化 (?) し、軟質化 (D) する。 砂状~粘土状部は挟まない。 176.78~179.15m: OH 堅硬。塊状でコア長20cm以上の棒状 コアが主体。一部に含まれる仲着割 れ目も密着度が高く、ハンマーの強 打でも分離しない。上位にはべ緑泥 石化が進み、径2~5mmの暗緑灰色の 斑点状~塊0.5mmの細脈状で分布す る。細脈状のものは大半が周囲とよく 密着し、開口化しない。									14 37	48 78																		
-178			177.65m: 35°で幅2~3mmの石英脈が 分布する。周囲と同化する。 177.83~178.27m: 径5~10mmの大型 な褐色のカリ長石が露出し、点在す る。	33	CM'																									
-179			178.31~178.39m: 上端75°、下端70° の割れ目に囲まれ径25mmで径5~10 mmに細片化する。幅25mmでごく薄く 砂状化する部分がある。上表面に緑 泥石がフィルム状に付着する。 178.45m以深は仲着割れ目が多いが、 密着度が高く、ハンマーの強打でも 分離しない。 179.15~180.00m: CM	43																							15			
-180.00			179.37~179.68m間の一部は15~57° の割れ目が交差し片状化するが、岩 片は堅硬で、面は未風化・未炭質で 挟在物も分布しない。一部でわずか に綠泥石がフィルム状に付着する。 仲着割れ目の多くは開口割れ目化す る。	43																										

第7.4.4.226図 (36) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

件名 :

孔番 : H27-B-3

深度 0.00m ~18.00m



第7.4.4.226図 (37) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)



第7.4.4. 226図 (38) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

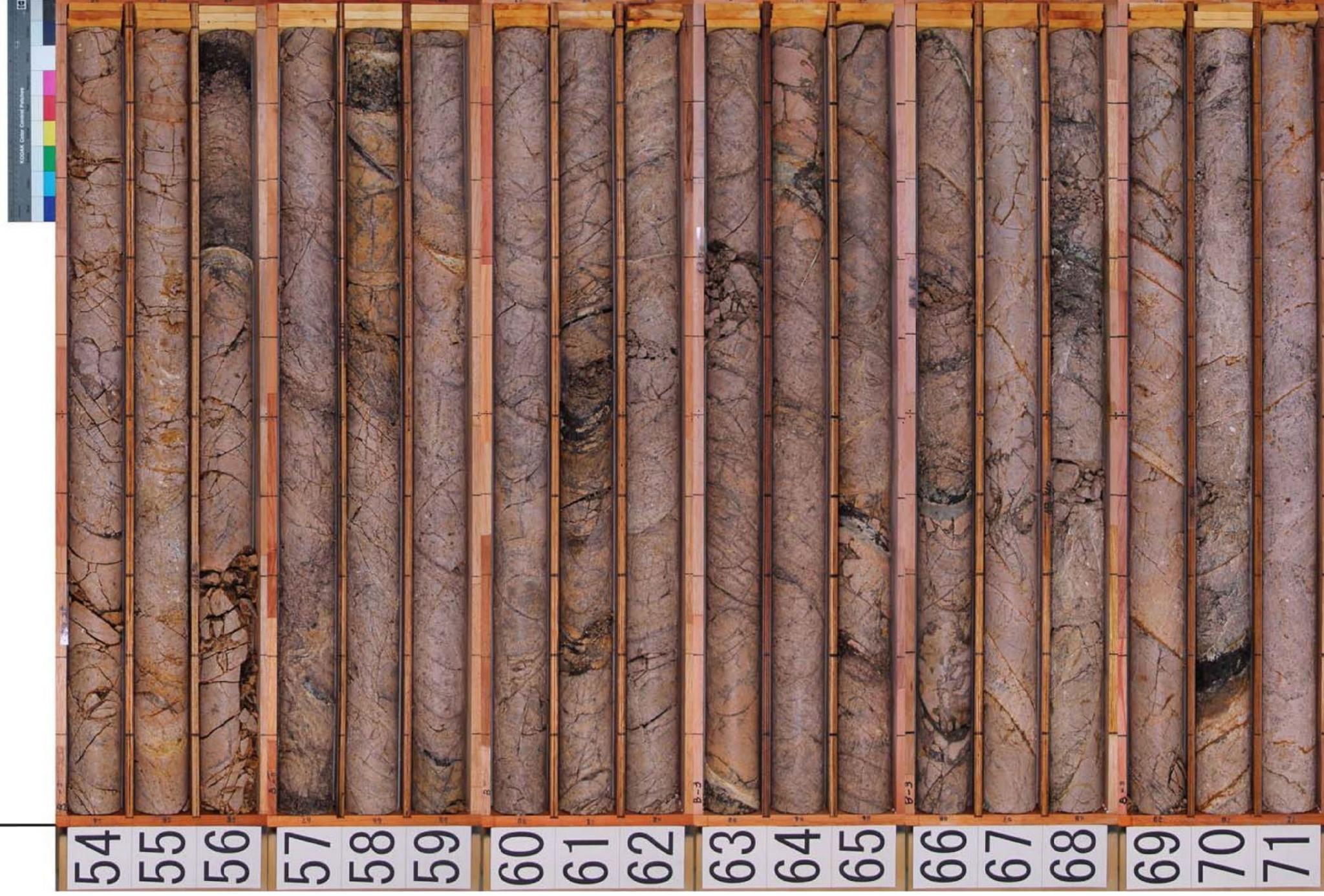


第7.4.4. 226図 (39) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

件名 :

孔番 : H27-B-3

深度 54.00m ~ 72.00m

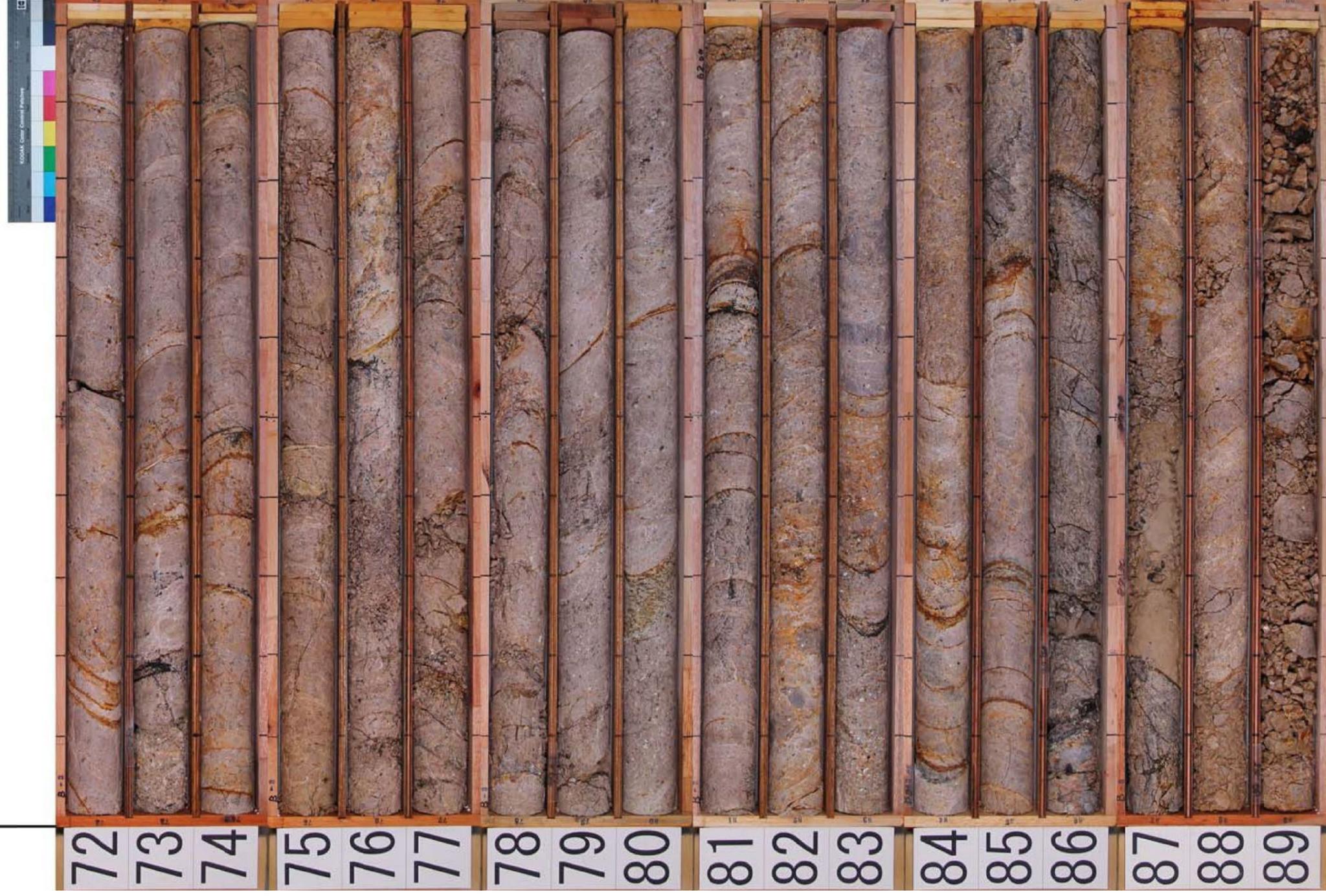


第7.4.4. 226図 (40) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

件名 :

孔番 : H27-B-3

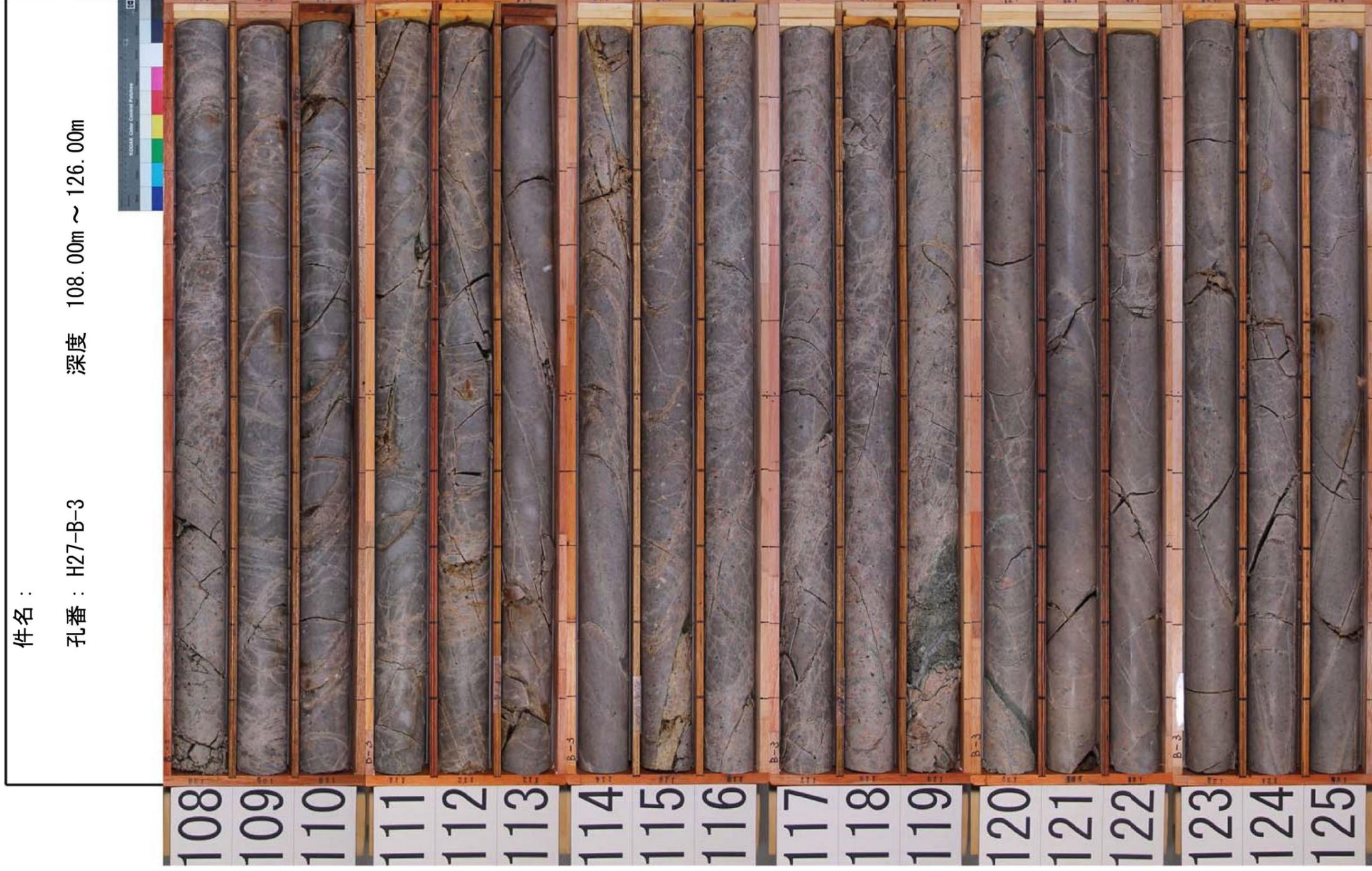
深度 72.00m ~ 90.00m



第7.4.4. 226図 (41) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)



第7.4.4. 226図 (42) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)



第7.4.4. 226図 (43) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)



第7.4.4. 226図 (44) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)



第7.4.4. 226図 (45) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

件名：

孔番： H27-B-3

深度 162.00m ~ 180.00m



第7.4.4. 226図 (46) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進深度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給 圧 (KN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)
6				明 黄 褐							5.73~6.00m: 基質はやや流しきみ。																	
7				明 褐 灰							6.30~7.00m: 礫混じり砂粗砂が主体となる。花崗岩類の径5~20mmの角礫を5%以下で含み、極めて少量の径10mm以下の頁岩の角礫を含む。上位に比べて良く締まっている。																	
8				盛 土							7.00~7.45m: アブライトの巨礫																	
9				明 黄 褐							7.45~13.75m: 礫混じり砂~砂質礫径2~70mmの花崗岩類、黒灰色の頁岩の角~亜円礫を5%以上含む。基質は粗粒砂~細礫からなり、やや締まっている。																	

第7.4.4.227図 (2) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 図 (標準貫入) 試験	原位置試験 孔内水平載重	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
11				盛土	明黄褐					10.15m: 炭分炭化した長さ100mmの木片を含む。 11.03~11.52m: 含有礫は上下位に比べて小さくなる。	(400)→																	
12				盛土	明黄褐					12.05~12.20m: 花崗斑岩の大礫を含む。 12.24m: 木片混じる。	(400)→																	
13				盛土	明黄褐					12.51~12.63m: 炭分炭化した木片混じる。	(400)→																	
14				花崗斑岩	にふい黄橙		Dg V _{FE} dg ε Eg		2	13.65~13.75m: 木片混じる。13.75m付近に含板を含む。 13.75~140.00m: 花崗斑岩堆積物との境界は45°で明確。所々、斑島が少なくアプライト様を呈する部分を含む。 13.75~14.67m: 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる。 14.24m付近: 65°の割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著である。 14.53m付近: 頁岩層を3層含む。上部からの崩壊物である。 14.67~15.49m: 風化は若干弱くなり割れ目のほとんどが隠蔽である。ようになるが、コアは、軟質で脆い割れ目に沿った薄い白色変質跡が見られるものがある。	0 (0) 4 (0)	D' (400)→ DL'																

第7.4.4.227図 (3) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m)	標準貫入 (N) 値	試験	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
16			[Pattern]	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	2	15.06m: 15.09mにはそれぞれ43°・55°の割れ目沿いに幅1~3mmのマンガンを含む。 15.30m以深は20°程度の低角度の割れ目や微劈、風化により割れ目沿いは劣化する。砂~シルト状の灰白色の細粒物が風られる。コアも軟質である。 15.49~15.62m: 礫状コアを呈する。 15.62~15.91m: 30°程度の割れ目沿いの劣化が著しく脆弱である。	4 (0)	DL'	0	0														
17			[Pattern]	花崗斑岩	明黄橙	Eg	Vg	dg	3	17.86~18.52m: コア表面のガラつきは幾分少ない。20°程度の低角度の軟質な割れ目が非常に多い。	14 (14)	DL'	0	0														
																										18.52~19.76m: 礫状コアが主体となる。		
18			[Pattern]	花崗斑岩	黄橙	Dg	Vg	cg	2	19.76~19.91m: 礫状コアが主体となる。	9 (0)	DL'	0	0														
																									19.91~20.06m: 礫状コアが主体となる。			
19			[Pattern]	花崗斑岩	浅黄橙	Gg	IVg	cg	2	20.06~20.21m: 礫状コアが主体となる。	0	DL'	0	0														
																									20.21~20.36m: 礫状コアが主体となる。			
20			[Pattern]	花崗斑岩	淡橙	Dg	Vg	cg	2	20.36~20.51m: 礫状コアが主体となる。	0	DL'	0	0														
																									20.51~20.66m: 礫状コアが主体となる。			

第7.4.4.227図 (4) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水位測定)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
21			+	花崗斑岩	Dg	Dg	Vg cg	δ		20.02m付近、傾斜50°で幅10~20mmの極めて小規模な変質部。途中でせん断する。 20.07m：傾斜30°で幅10~40mmの小規模な変質部。 周辺岩盤にも同様な細粒部が認められており、その分布は不規則で系統性が認められない。また、原岩組織の残留の程度は周囲の岩盤と同様である。 20.23~20.37m：割れ目沿いに一部細粒状となる。 20.55~20.65m、20.87~20.94m：粒状となる。	5 (0)																		
22			+	花崗斑岩			Wg bg	γ	2	21.18~21.50m：緻密な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭である。	11 (1)																		
23			+	花崗斑岩			Vg cg			21.50~22.47m：割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変わる。 22.47~22.55m：コアチップ引き上げ時の擾乱により粒状となる。	7 (0)																		
24			+	コア欠如				δ		23.38~24.55m：コアは軟質となり、表面はざらつく。 24.13~24.55m：落下したコアを再採取したものである。 24.55~25.48m：コア欠如	5 (0)																		

第7.4.4.227図 (5) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位置試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
31			+	花崗岩	にぶい橙	Dg	Vg	Vg		30.10~30.69m: 25° 前後の割れ目が見られる。 30.62~30.73m: やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条分布し、マンガンが幅3~5mmで挟在する。	13 [25]																					
32			+	花崗岩	にぶい橙	Og	IVg	IVg		31.77~31.93m: 25° 前後の微細な割れ目、ほぼ平行に密集する。 31.87~31.91m: 上溝45° で幅3mmの暗緑灰色の粘土~シルトを伴う。下端40° 上下端の間はやや緑色味を帯び軟質である。含まれる微結晶は不連続で、軟質な広面及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.05~32.72m: 割れ目沿いの酸化汚染が目立つ。 32.36~32.39m: 20° ~30° 程度の割れ目が平行して密集する。上下端の割れ目はマンガン汚染により黒色化しているが、割れ目に細結晶は認められず、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 32.68~32.73m: 30° 程度の割れ目がほぼ平行して密集する。緑泥石の薄い脈が3条分布する。	17 [12]																					
33			+	花崗岩	灰白		Vg	Og	Y 2	33.00~33.62m: 30~50° の割れ目が卓越し、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。 33.00m, 33.46mの割れ目には幅2~5mm程度で緑色化が見られる。 33.30m: 割れ目には幅1~3mmの灰白色粘土化が見られる。	1 [22]																					
34			+	花崗岩	にぶい橙		Vg	Dg		34.11~34.22m: 不規則な微細な割れ目が多い。 34.22m: 傾斜65° で幅8mmの石英脈を挟む。 34.30~34.42m: コアチップ引き上げ時の擾乱により機械割れ目が集中し、礫~岩片状コアとなる。 34.55m付近: 傾斜38° で局部的に連続しない細線部を伴う。細線状部は途中でせん断し、周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 34.78m, 34.79m: 傾斜50° で幅1mm以下の石英脈を挟む。後者の割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を伴う。	1 [22]																					

第7.4.4.227図 (7) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
36			+	花崗斑岩	浅黄	Cg	IVg	og			35.32m: 傾斜40°で幅2~3mmの石英脈を挟む。周辺は幅1cm程度で赤味を帯びる。 35.60~35.78m: 35°程度のほぼ平行した割れ目が密集し脆弱となる。割れ目沿いに白~灰黄色の粘土脈が見られる所が多い。 35.72m付近は塊状であるが、挟み込む細粒部は局所的に分布し、連続性に乏しく35.70~36.70m間及び周辺岩層には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 35.78~39.40m: 割れ目沿いの酸化及びマンガン汚染が目立つ。 36.14~36.35m: 割れ目がやや卓越する。 36.25~37.20m: 傾斜70°以上の高角度割れ目が見られる。	14 [14]	DL'																				
37			+	花崗斑岩	にぶい橙	Cg	IVg	og			36.86~39.40m: 傾斜50~70°の割れ目が主体となる。 36.96~37.10m: 75°の割れ目に沿って幅12mmで白色化し、細礫~砂状となる。	10 [10]	CM'																				
38			+	花崗斑岩	にぶい橙	Bg	IIIg	og			37.36m: 25°の割れ目に沿って幅4mmの暗褐色のシルト~砂が流入する。 37.36~37.98m: 割れ目沿いの酸化汚染は明瞭であるが、挟み物は見られない。 38.08~38.96m: 挟み物を伴う割れ目は、38.53mの70°の1条のみである。	28 [28]	CH'																				
39			+	花崗斑岩	浅黄	Cg	IVg	og			38.96m以深、割れ目に沿って劣化するものが多い。 39.21m、39.60~39.65m: 割れ目沿いに劣化し、幅10mm以下で砂~細礫状となる。	22 [22]	CM'																				

第7.4.4.227図 (8) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	試験	原位置試験 (孔内全長)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
46				花崗斑岩	にぶい橙	Cg, Dg, Cg, Bg	Vg, IVg, Vg, IVg	cg, bg		2	45.10m: 割れ目に沿って上端側は一部、幅20mmで脆弱となる。緑葉色散在し、緑色化が著しい。割れ目に細粒部は認められず、割れ目の上位側の脆弱部は局所的に分布し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 45.42~45.62m: 微細な割れ目が密集し、コアも軟質で表面がやつつく所が多い。 45.73~45.80m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の礫~砂状となる。 46.10~46.35m: 60~70°の割れ目が密集する。挟在物を伴う割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。	8 [100] 9 [100]																					
47				花崗斑岩	にぶい橙	Cg, Bg	Vg, IVg	bg		2	47.11~47.32m: 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ脆弱となる。 47.36~47.53m: 高角度と低角度の割れ目が交差し格子状となる。割れ目には汚染は見られないが砂状の挟在物を伴う。 47.76~48.39m: 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。 47.76~47.88m: 割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭である。	10 [100] 11 [100]																					
48				花崗斑岩	にぶい橙	Cg, Bg	Vg, IVg	bg		2	●48.39~48.43m: 破碎部砂混じり粘土状~礫質砂状部 (Hc-2) 上端52°、下端45°。上端側は幅5~10mmでにぶい橙色を呈する砂混じり粘土状部。下端側は幅12~20mmで灰白色を呈する礫質砂状部からなる。両者の境界はぼやけている。全体としてやや赤味を帯びる。幅30mm。 48.74m: 傾斜40°の割れ目に幅1mm以下の灰白~緑灰色粘土を挟む。下端側幅2cm程度は長石の白濁化が目立つ。 48.87m: 傾斜42°の割れ目とそれと直交する40~50°の割れ目に沿ってマンガン汚染が見られる。 49.02~49.18m: 不規則な割れ目が発達する。 49.18m: 63°で、上端側幅20mmが劣化し脆弱となる。幅2mm以下の褐色粘土及び上端側の脆弱部は途中でせん断し、連続性に乏しい。周辺岩盤には原岩組織が認められる。 49.43m: 47°で幅2~4mmの白~黄褐色の鉱物脈を挟む。風化したやや軟質である。	12 [100] 13 [100]																					
49				花崗斑岩	にぶい橙	Dg, Vg	Vg, IVg	cg		2		14 [100]																					

第7.4.4.227図 (10) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位置試験 (孔内水位変動)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)		
56			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Bg	IV _R	VE, CG, IV _R		55.56m: 50° の割れ目間に幅3mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明瞭である。 56.45~56.61m: 高角度と低角度の割れ目が交差し亀甲状となる。 56.74m: 71° で幅3mmの褐色粘土を挟む。 56.88~56.98m: 約50° のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し、一部露状となる。 57.24~58.50m: 多くの割れ目に褐色汚染が見られる。 57.54~57.74m: 傾斜50~66° の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。 58.06~58.71m: 岩質は硬い。	7 10 10 6 18 32 32 44	OL' OL'																	
57			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Bg	IV _R	VE, CG, IV _R																					
58			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Bg	IV _R	VE, CG, IV _R																					
59			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Bg	IV _R	VE, CG, IV _R																					

第7.4.4.227図 (12) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
61			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Cg	cg		2	60.07~60.45m: 微細な割れ目が卓越し、変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹凸所が多く、チラチク。灰白~にふい褐色の粘土が網目状に分布する。	4	400																							
						Dg			3																										
						Cg			2	60.45~60.82m: 30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。	4	400																							
						Dg	cg		3	60.82~61.72m: 微細な割れ目が卓越し、にふい褐色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で、特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂礫状を呈する。	3																								
62			+++++	花崗斑岩	にふい橙					61.72~62.36m: コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	3	400																							
						Cg			2	62.36~63.25m: コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優勢な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	3	400																							
						Dg	cg		3	62.75m: 傾斜65°で幅10mmがやや緑色味を帯び、褐色汚染が明瞭である。割れ目に幅1mm以下の灰黄色粘土を系統的に挟み、連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色脈を横断する。割れ目周辺の岩壁には脈状組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	3																								
						Cg			2	63.00~63.26m: 劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。63.26~63.62m: 上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄色の粘土を挟む。	3																								
63			+++++	花崗斑岩	にふい橙					63.62~63.90m: 全体に軟質で、泡甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。	6	400																							
						Dg			4	63.90~64.30m: 強く変質し軟質で、割れ目は不鮮明となり、やや緑色を帯びる。原岩組織は認められない。	6	400																							
						Eg	dg		4	64.30~64.65m: 上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。緑化汚染は見られない。	6	400																							
						Cg			2	64.65~64.91m: 破碎部粘土混じり糜状部 (HJ) 上端65°で直線的に連続。下端65°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。また、64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1~3mmの灰~灰白色シルト (Hc-2) を挟む。全体はにふい黄褐色を呈する。	6	400																							
64			+++++	花崗斑岩	にふい橙																														
						Dg			3																										
						Eg	dg		4																										
						Cg			2																										

第7.4.4.227図 (13) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 → (%) → cm → R Q D → L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 図	試験 (孔内水位変動)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)					
66			+++++	花崗斑岩	褐灰	Bg Cg	VE Vr	cg dg	2 4 3	●65.59~65.72m: 破碎部粘土混じり砂~線状部 (H) 上端65°で連続的に連続、下端30°で不明瞭、径2~30mmの岩片主体で一部砂状化する。灰色を呈する。幅10mm。65.65mには傾斜65°で幅2~3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。 65.72~65.85m: 線目状に微細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う。 65.85~66.30m: 傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。 66.30~67.28m: 割れ目沿いに褐色汚染が呈される。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著である。	3 (0)																			
67			+++++	花崗斑岩	灰黄褐	Dg			3	66.97~67.28m: 割れ目が交差し、細かい亀甲状となる。	3 (0)																			
68			+++++	花崗斑岩	灰白	Eg Dg	Vr Cg	dg cg	4 3	67.28~67.75m: 変質部で、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈する。割れ目は不明瞭となる。粘土化が進む。健岩部との境界は明瞭であるが湾曲している。上端側は低角度の割れ目で埋められる。原岩組織は不明瞭で含まれる岩片に定向配列などは見られない。 67.85~68.70m: 傾斜30~50°程度の割れ目が主体で、特に、68.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達する。割れ目には所々、灰白色粘土やマシオンを伴う。 68.07~68.97m: コアは軟質で表面がサラつく。	3 (0)																			
69			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Dg	Vr Eg	cg dg	2	68.70m: 30°で幅8mmの黄褐色粘土を挟む。割れ目の周辺は幅5~10mm程度で褐色化が顕著である。 68.70~68.97m: 傾斜70~90°の割れ目が多い。 68.97~69.08m: 傾斜~砂状を呈するが、粘土は挟まない。 69.28~69.30m: 割れ目沿いに劣化し、細糜状となる。 69.59m, 69.70m: 傾斜25~30°の割れ目沿いわずかに褐色化する。 69.63~69.77m: 50~70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交差し、高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭である。 69.85~70.00m: 割れ目が密集し、岩片状を呈する。	2 (0)																			

第7.4.4.227図 (14) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟		コア形状		割れ目の状態	風変質	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験		室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
						Dg	Vg	Dg	Vg				Dg	Vg			Dg	Vg											() 値	() 図								
71			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	Dg	Vg	Dg	Vg	70.06m付近、傾斜60°で幅20~30mmが局所的に脆弱となる。割れ目沿いの細粒部は連続性に乏しく、細粒部の下縁部にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 70.06m：傾斜55°で幅3~10mmの灰白色粘土を挟む。	9	100																								
72			+++++	花崗斑岩	淡橙	Dg	Vg	Dg	Vg	Dg	Vg	70.91~72.00m：アフライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明である。 71.13~71.38m：褐色化する。 71.22m・60°、71.25m・54°の割れ目間が幅20~30mmで脆弱となる。割れ目に幅1mm以下の黄灰色粘土を挟むが、不連続である。2条の割れ目の間には原岩組織が認められる。 71.25~71.33m：マンガン汚染が顕著である。 71.25~72.79m：やや軟質でコア表面はガラつく。	5	100																								
73			+++++	花崗斑岩	淡橙	Dg	Vg	Dg	Vg	Dg	Vg	72.24m：傾斜53°で幅1~3mmのマンガンを挟む。 72.33m：32°の割れ目に幅3~15mmのマンガンに汚染された暗緑灰色の硬質な砂を挟む。細粒部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 72.41m：傾斜65°で幅1~2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。 72.48m：傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1~4mmのマンガンを挟む。径1~2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	5	100																								
74			+++++	花崗斑岩	淡橙	Dg	Vg	Dg	Vg	Dg	Vg	73.56m：65°で幅4~10mmのマンガン汚染された暗褐色のシルト質砂を挟む。 74.16~74.34m：30~50°の割れ目が密集し、脆弱である。 74.16~74.23m：微細な割れ目が発達し、マンガンが濃集する。上下端の傾斜は45°程度で凹凸が著しい。 74.32m：傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。 74.63m：傾斜60°で幅3~5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化する。	8	100																								

第7.4.4.227図 (15) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
76	-46.97	76.25	花崗斑岩	淡橙	Bg	Bg	Bg	bg			75.05~75.20m: 20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。	6 [0]	CL'		0													
																												76.25~77.80m: 傾斜51°で幅1~3mmの暗褐色粘土を挟む。上端部は一部灰白色粘土が網目状に分布し、変質が進む。76.25~77.80m: アブライト径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界は砂着して不明瞭。
77	-48.06	77.80	アブライト	淡橙	Cg	Cg	Cg	Cg	Cg	Cg	76.61m: 傾斜54°で幅1~3mmの暗褐色粘土を挟む。 76.80m: 傾斜45°で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。 76.90m: 傾斜50°で幅1~3mmのマンガンを挟む。 77.19m: 傾斜50°で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。	8 [0]	CL'		0													
78	-48.06	77.80	花崗斑岩	淡橙	Dg	Dg	Dg	Dg	Dg	Dg	77.96~78.08m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の砂状の塊状物を伴う。	6 [0]	CL'		0													
79	-48.06	77.80	花崗斑岩	淡橙	Bg	Bg	Bg	Bg	Bg	Bg	78.47~78.71m: 割れ目沿いにマンガン汚染が目立つ。 79.45~79.57m: 短い放射状のマンガン汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	10 [0]	CM'		0													

第7.4.4.227図 (16) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	ア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	試験	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進距離 (m)	孔徑 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
81			+++++	花崗斑岩	淡橙	Bg	IV _E	bg	2	80.13~80.29m: 35~55°の同方向の割れ目が密着する。マンガン汚染が目立ち、脱色も見られる。 80.29~80.51m: 割れ目はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭である。 80.51~81.02m: 割れ目に挟在物は見られず、岩質は硬い。	100	CM'																
						Dg	VE	cg	3																			
82			+++++	花崗斑岩	淡橙	Bg	IV _E	bg	2	81.30~81.96m: 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質である。90°の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着する。 82.70m, 82.83m: 傾斜50°前後で幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	100	CM'																
						Cg	VE	cg	3																			
83			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Bg	IV _E	cg	2	83.08~83.32m: 40°前後の割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。汚染は、割れ目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達する。 83.31m: 傾斜38°前後で幅0~8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。	100	CM'																
						Cg	VE	cg	3																			
84			+++++	花崗斑岩	にふい橙	Bg	IV _E	bg	2	84.09~84.77m: 多方向の割れ目が発達し、岩質も軟質である。特に84.15~84.19m, 84.39~84.58m間は劣化が進み、脆弱である。黄色味を帯びて細片状を呈する。	100	CL'																
						Dg	VE	cg	3																			

第7.4.4.227図 (17) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水位変動)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)		
86				花崗斑岩	にふい橙	Cg	IVg	bg	Cg	85.73~85.97m: 70~90°の高角度の2本の割れ目に挟まれた新面が露出し、岩片状となる。	9 (10)	CM'															
87				花崗斑岩	にふい橙	Bg	IVg	bg	Cg	86.73~86.83m: 上端37°, 下端40°の割れ目に挟まれた区間で局所的に明褐色の砂~礫状となる。 86.83~88.03m: 傾斜60°前後の割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、存在物はほとんど見られず。岩質も硬い。 87.11m: 傾斜60°で幅5mm程度が緑色化する。	11 (100) 12 (20) 13 (100)	CM'															
88				花崗斑岩	にふい橙	Bg	IIIg	bg	Cg	88.59m: 傾斜43°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化する。 88.96m: 45°の割れ目の下端側が劣化し局所的に非常に脆弱である。上端側は幅20mmで酸化汚染及びマンガンの汚染が明瞭に見られる。	14 (100) 15 (100)	CM'															
89				花崗斑岩	にふい橙	Bg	IVg	bg	Cg	89.27~89.44m: 傾斜45°前後の微細な割れ目が0.5~3cm程度の間隔で露出し、コアもやや軟質である。	16 (100) 17 (100)	CM'															

第7.4.4.227図 (18) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N値~深度) 図 (標準貫入) 試験	原位置試験 (孔内水位 載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)					
91			+++++	花崗斑岩	浅黄橙	Bg IV _E	bg	Bg IV _E			90.64m: 傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを採む。周辺は幅1cm程度緑色化する。 90.75~91.06m: 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は50°以下の顕在化した割れ目以下に割れていくものが多い。50°以下の割れ目に細粒部は伴わない。もしくは流中でせん断し、連続性に乏しく、割れ目周辺の岩盤には層状組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 91.45m: 48°で幅6mmが緑色を帯びる。割れ目に存在する細粒部はせん断する。割れ目周辺の岩盤には層状組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	CM' (100)→ 17 [17]	CL'																		
92			+++++	花崗斑岩	浅黄橙	Cg V _E		Cg V _E		2	92.55~92.71m: 多方向の割れ目が交差し亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	6 0																			
93			+++++	花崗斑岩	浅黄橙	Eg IV _E Cg V _E		Eg IV _E Cg V _E		3	92.94~92.96m: 傾斜27~40°の2本の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びてやや軟質である。 ●93.13~93.22m: 破碎部 93.13~93.14m: 粘土状部 (Hc-1) 傾斜30°。淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m: 粘土掘じり礫状部 (Hj) 上端30°。下端50°。いずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土組織を挟む。にふい黄褐色を呈する。幅57mm。	6 0																			
94			+++++	花崗斑岩	浅黄橙	Bg IV _E Cg		Bg IV _E Cg		2	94.38~94.40m: 2本の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び前区岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	14 [14]																			

第7.4.4.227図 (19) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 → (%) ← 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘進深度 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
96			+++++	花崗斑岩	Bg	Bg	Vg	cg			95.08~95.37m: 35~60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受け、割れ目沿いはやや緑色を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。 95.65~95.75m: 傾斜60°で幅3cm程度が劣化し砂礫状を呈する。絹雲母が散在する。 96.20~96.32m: 30°で幅30~40mmが脆弱で軟質となる。緑色を帯びる。下端側幅1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる礫や岩片に定向配列は見られない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。 96.96m: 傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化する。 97.10~97.58m, 97.81~98.03m: 割れ目が著しく劣化し、砂礫状を呈する。コアが乱れている。	3 (0) (100) 6 (0) (100)	QL																			
97			+++++	花崗斑岩	Dg	Dg	IVg	bg				3 (0) (100) 6 (0) (100)	D																			
98			+++++	花崗斑岩	Eg	Eg	Vg	cg			98.03~98.27m: 短柱状~岩片状コアからなる。傾斜40~60°の割れ目に沿った劣化が顕著である。 98.27~99.53m: 柱状~短柱状コアからなるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。 98.64m: 傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。 98.70~98.74m: マンガンが濃集する。	3 (0) (100) 11 (11) (100)	D																			
99			+++++	花崗斑岩	Dg	Dg	Vg	cg			99.05~99.10m: 局所的に劣化が進み礫状となる。緑化汚染も顕著である。99.10m付近に絹雲母が多く見られる。傾斜50°で幅1.5cm程度が緑色化する。	3 (0) (100) 5 (0) (100)	QL																			

第7.4.4.227図 (20) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	形状	割れ目の状態	風変質	記 事	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔内水平載荷)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)				
106				花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	III _E , IV _E , III _K , IV _E , II _E , IV _K , III _K , II _E , IV _K	bg, cg		105.08~105.80m: 柱状コアが主体で岩質も堅硬である。 106.31~106.38m: 局所的に傾斜10~45°の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。 106.58~106.92m: 斑状の褐色汚染が見られる。 106.87m: 30°で幅3mmの汚染されて褐色となった砂〜シルトを挟む。	18 (44), 16 (40)	CH, CM																		
107				花崗斑岩	にぶい黄橙	Dg	VI _E , dg, Eg, V _E , cg, Dg, V _E , cg			107.47~108.34m: 堅硬な柱状コアが主体で、割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが、残存物はほとんど見られない。 108.44~108.63m: 砕砕部 (HJ) 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続。径2~10mmの粘土化した岩片主体で、全体に軟質で灰白色を呈し、弱い織状構造が見られる。 108.63~108.67m: 粘土質凝結部 (H)	19 (42)	CH																		
108				花崗斑岩	浅黄橙	Dg	VI _E , dg, Eg, V _E , cg, Dg, V _E , cg			108.71~109.79m: 傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。 108.71~108.90m: 直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。 108.90~109.03m: 砂凝結を呈し、一部高角度割れ目に流入する。 109.41m: 傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを含み、下端割れ目1.5cm程度は珪化し、にぶい褐色に変色して原岩組織も不明瞭となる。 109.76~109.79m: 傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で密着し、灰白色を呈する。下端側の健岩部との境界は明瞭である。 109.79~110.78m: 微細な割れ目が密集する所もあるが、コアは硬く、割れ目の多くは密着する。 109.79~110.38m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	5 (0)	CL																		
109				花崗斑岩	浅黄橙	Dg	VI _E , dg, Eg, V _E , cg, Dg, V _E , cg			109.79~110.78m: 微細な割れ目が密集する所もあるが、コアは硬く、割れ目の多くは密着する。 109.79~110.38m: 傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。	5 (0)	CL																		

第7.4.4.227図 (22) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変質	変質	記	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 孔内全長	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (mm/分)	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
111			+++++	花崗斑岩	にふい黄橙	Bg Vg Bg IVg Cg Vg	IVg	Bg Cg IVg			111.22~111.59m: 傾斜80~90°程度の割れ目が複数分布する。 111.57m付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変化する。	10 [101]	DL'														
112			+++++	花崗斑岩	にふい黄橙	Bg Vg Bg IVg Cg Vg	IVg	Bg Cg IVg			112.84~113.03m: 傾斜60~80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挿入物は無く、弱い褐色汚染が認められる。	11 [89]	CH'														
113			+++++	花崗斑岩	にふい黄橙	Dg Vg Bg IVg Cg Vg	IVg	Bg Cg IVg			113.41~113.54m: 微細な割れ目が見えや発達する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mmが軟質、脆弱となる。	11 [11]	CH'														
114			+++++	花崗斑岩	にふい黄橙	Bg Vg Bg IVg Cg Vg	IVg	Bg Cg IVg			114.57~114.76m: 割れ目が発達する。114.60~114.66m間は40°程度の平行した割れ目が密集する。114.73m付近は緻密な岩片状となる。	11 [28]	CH'														

第7.4.4.227図 (23) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	試験	原位試験 孔内水平載荷	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給 圧 (kN / MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L / 分)	排 水 量 (L / 分)					
116				花崗斑岩	にふい黄橙 浅黄橙 にふい黄橙	IV _E	IV _E	IV _E	115.40~115.54m: 115.46m付近の2条の潜在割れ目を中心に褐色汚染が明顯である。黄鉄鉱を中心褐色化が顯著に見られる。 116.30m: 57°で幅5mmの褐色に汚染された砂状状在物が見られる。 116.52~119.32m: 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。 117.83m: 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色を帯びる。割れ目の周囲には絹雲母が露出する。 119.65~119.83m: 割れ目がやや発達する。割れ目にはマンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部は砂~シルト状の状在物が見られる。	50 22 21 30 24 30	CM' CH CH CM'																						
117										III _E	III _E	III _E			100 57 47 72 36 30																		
118										II _E	II _E	II _E																					
119										IV _E	IV _E	IV _E																					

第7.4.4.227図 (24) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の状態	風変質	記	コア採取率 → (%) → om → R Q D → L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値 (N 値 ~ 深度) 図	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (KN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)		
121				花崗斑岩	にふい黄橙	IVg	OG		120.05m~120.07m: 傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。 120.31m付近、35°の平行な割れ目が密集し、マンガンを含む。 120.40m: 40°の比較的シャープな割れ目に緑灰色の変質層と幅2mmの褐色化が顕著に現れる。 120.40~121.54m: 堅硬な柱~棒状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	50	GM														
122		浅黄橙			Bg	IIIg	IIg	IIIg	IIg	121.60m: 傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細粒状となる。白色のシルト状の粘土が見られる。	28	GM													
123		にふい黄橙			OG	IVg	OG	IVg	OG	2 122.46m: 傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色を帯びる。細菌が散在し、褐色汚染も顕著である。 122.54~123.84m: 顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	36	GM													
124		にふい黄橙			OG	IVg	Bg	IVg	OG	123.00~123.20m: 高角度の割れ目に幅1~6mmのマンガンを含む。割れ目が密集し脆弱である。 123.15m: 傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で緑色化する。 123.85m: 60°で幅3mmの褐色に汚染された砂を挟む。 124.00~125.20m: 柱状コアが主体となり、岩質も硬い。	8	GM													

第7.4.4.227図 (25) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N値~深度) 図	原位置試験 (孔内立軸)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
126				花崗斑岩	にふい黄橙	Bg, IVg, IIIg, IVg	IIg, IVg, IIIg	Bg, IVg, bg			125.37m付近、局所的に微細な割れ目が見られる。	20	CH'																			
127				花崗斑岩	にふい黄橙	Bg, IVg, IIIg, IVg	IVg, IIIg, IVg	Bg, IVg, bg			126.34~126.69m: 柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。	24	CM'																			
128				花崗斑岩	にふい黄橙	Bg, IVg, Cg, Vg, cg	Vg, cg	Bg, IVg, bg			127.00~127.83m: 不規則で微細な割れ目が見られる。 127.06~127.30m: 軟質でコア表面は芽がつく。変質により割れ目に沿って緑色を帯びる所がある。 127.19~127.22m: 傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土、一部赤褐色粘土を挟む。	12	CL'																			
129				花崗斑岩	明黄橙, にふい黄橙	Bg, IVg, Vg, IVg, Vg	Vg, IVg, Vg	Bg, IVg, cg, bg			128.26~128.76m: 微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。 128.90~129.15m: 一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は線状となる。	8	CL'																			
						Bg, IVg, IIIg, IVg	IIg, IIIg, IVg	Bg, bg			129.98~130.50m: 傾斜80°程度の割れ目が見られる。	32	CM'																			

第7.4.4.227図 (26) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水平載重)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ビット	給圧 (KN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
131				花崗斑岩	にごい黄橙	Cg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	bg, cg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	Ⅱ			130.02~130.42m: 80°の高角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに劣化し、一部礫状となる。 130.84m付近、交差する割れ目に見まわれ、劣化が局所的に劣化し、礫状となる。 131.54~131.61m: コアの半分が劣化し礫状となる。 132.14~132.67m: 堅硬な柱状コアとなる。 132.31m: 傾斜25°で幅1~2mmの石英脈を挟む。 132.67m: 傾斜82°の割れ目が分布する。 132.87m: 45°で幅3mmのマンガンを含む。 133.24~133.29m: 傾斜40~50°の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。 133.90m: 傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。 134.02~134.50m: 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。 134.50~134.74m: コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。 134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	9 [9]	にごい黄橙	CH'	9																					
132				花崗斑岩	にごい黄橙	Bg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	bg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	Ⅱ			132.14~132.67m: 堅硬な柱状コアとなる。 132.31m: 傾斜25°で幅1~2mmの石英脈を挟む。 132.67m: 傾斜82°の割れ目が分布する。 132.87m: 45°で幅3mmのマンガンを含む。 133.24~133.29m: 傾斜40~50°の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。 133.90m: 傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。 134.02~134.50m: 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。 134.50~134.74m: コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。 134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	26 [45]	にごい黄橙	CH'	26																					
133				花崗斑岩	にごい黄橙	Bg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	bg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	Ⅱ			132.14~132.67m: 堅硬な柱状コアとなる。 132.31m: 傾斜25°で幅1~2mmの石英脈を挟む。 132.67m: 傾斜82°の割れ目が分布する。 132.87m: 45°で幅3mmのマンガンを含む。 133.24~133.29m: 傾斜40~50°の割れ目間が礫状となり、礫には褐色の細粒物が付着する。 133.90m: 傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。 134.02~134.50m: 強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。 134.50~134.74m: コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。 134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	26 [45]	にごい黄橙	CH'	26																					
134				花崗斑岩	灰白	Bg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	bg, IVε, IIε, IIIε, IVε, IIε, IIIε, IVε, cg, IIIε, IVε, IIIε	Ⅲ			134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	14 [45]	にごい黄橙	CH'	14																					

第7.4.4.227図 (27) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目の形状	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 試験	原位置試験 (孔内水位変動)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
-136			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	IIg	bg	135.28~135.60m: 傾斜25°前後の2~3本の割れ目が2~10cm程度の間隔で平行に分布する。岩質は硬い。	22	[38]	OH														
							IVg																			cg
-137			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	IIIg	bg	136.00~136.22m: 傾斜90°の割れ目が複数見られ、低角度の割れ目と交差し、割れ目がやや発達する。割れ目にはマンガンに染染された挟持物が見られるものがある。	9	[100]	OH														
							IVg																			cg
-138			+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	IIIg	bg	136.21~136.22m: 傾斜25°程度の2本に分岐した割れ目に幅1~3mmのマンガンを挟む。	24	[54]	OH														
							IVg																			
-139			+	花崗斑岩	灰白	Bg	IIIg	bg	138.01~138.16m: 微細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多い。幅2~3mmの灰黄色粘土を挟む。	16	[28]	OH														
							IVg																			
-92.04	140.00		+	花崗斑岩	にぶい黄橙	Bg	IIIg	bg	139.28~138.29m: 幅10mmで平行した60°程度の割れ目が密集する。	9	[101]	OH														
							IVg																			

第7.4.4.227図 (28) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)



第7.4.4.227図 (29) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

件名 :

孔番 : H27-B-4

深度 18.00m ~ 36.00m



第7.4.4.227図 (30) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

件名：

孔番：H27-B-4

深度 36.00m ~ 54.00m



第7.4.4.227図 (31) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

件名 :

孔番 : H27-B-4

深度 54.00m ~ 72.00m



第7.4.4.227図 (32) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

件名 :

孔番 : H27-B-4

深度 72.00m ~ 90.00m



第7.4.4.227図 (33) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

件名：

孔番：H27-B-4

深度 90.00m ~ 108.00m



第7.4.4.227図 (34) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

件名：

孔番：H27-B-4

深度 108.00m ~ 126.00m



第7.4.4.227図 (35) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)



第7.4.4.227図 (36) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	柱状区分	岩種区分	色調	硬さ	割れ目の形状	風化質	変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	() 値	() 試験	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	総進速度 (mm/分)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L/分)	排水水量 (L/分)						
6				壁土	明褐色	硬	明褐色				5.70~5.70m: 特殊物理により粉末状を含む。粉化中~粗粒状シルトや炭化物を含む。全体に若干有微塵である。																					
7	2.35	6.65		凝灰砂	褐色	軟	褐色				6.66~8.39m: 凝灰砂 6.66~6.82m: 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。 6.82~7.45m: 凝灰砂。全体に若干有微塵である。 7.45m付近はシルトが混入。全体に径2~5mmの繊維が混入。繊維は花崗角~珪角質を主とする。繊維は花崗凝灰、アブライト、石英からなる。 7.45~8.39m: 凝灰砂。下部は微塵となる。径5~10mm程度の石英の繊維を多く含む。炭化物も繊維に含む。 7.10~8.08m: 径5~30mmの風化層及び半風化層を含む。 7.30m付近、未分解の種物片を含む。 7.70m付近、炭化物を含む。																					
8	1.13	8.39		灰	灰	硬	灰				8.08~8.39m: 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以下は若干の有微塵を含む。 8.39~8.83m: 砂混じり有微塵シルト。径1.5cmの花崗凝灰の片を伴う粗粒砂を含む。径0.45mm以下は微塵。均質である。 8.83~9.54m: 凝灰砂。径45~50μmの有微塵及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をプロロック状に含む。 8.83m付近に粗粒砂の薄層を含む。 8.83~9.10m: 有微塵混じり砂。粗粒砂を主とし、石英繊維が未滅を含む。少量の炭化物を含む。 9.10~9.54m: 凝灰砂。均質である。一部未滅の石英を含む。 9.13~9.15m: 凝灰砂。凝灰砂を薄層状に分布する。下部は凝灰がやや粗く、砂質。下部は凝灰がやや粗く、砂質。 9.20~9.54m: 凝灰砂を主とするが不均質で、径0.5cmの石英角縁を含む。凝灰砂を主とするが不均質である。炭化物片、未分解種物片も少量含む。 9.54~11.12m: 砂層 径2~50mmの花崗凝灰層が主体。凝灰は少量の粘土分を含む粗~中粒砂。 9.54~9.71m: 径7cmの玉石を含む。																					
9	0.31	9.54		砂層	黄	軟	黄																									

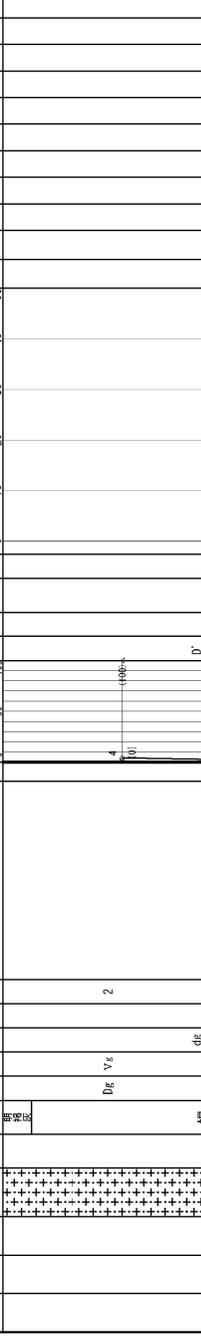
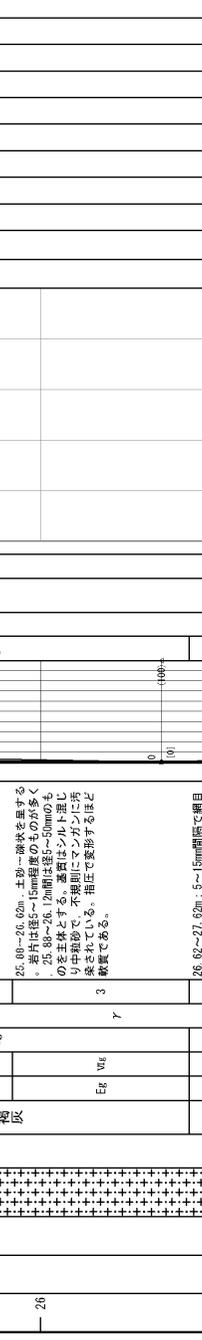
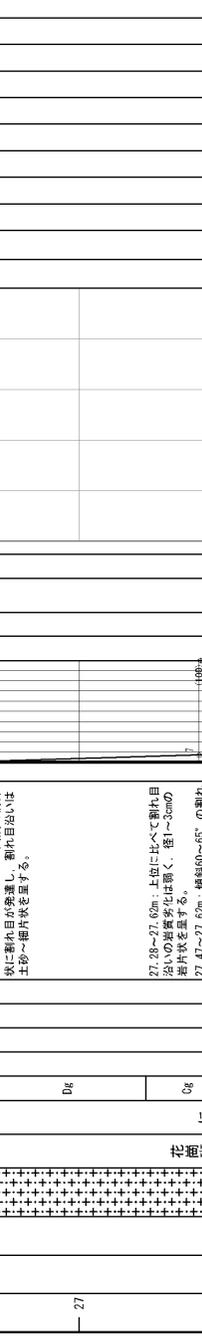
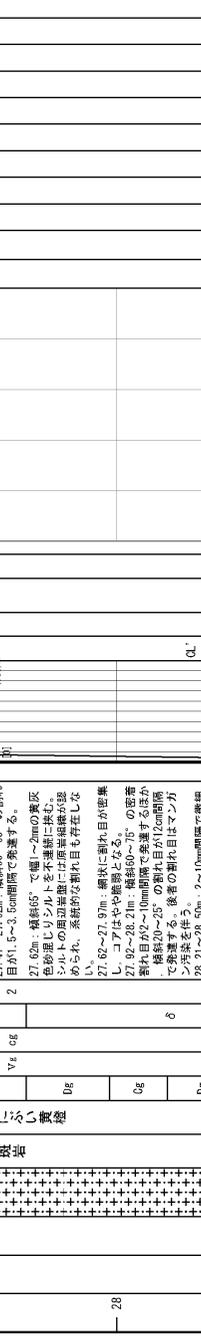
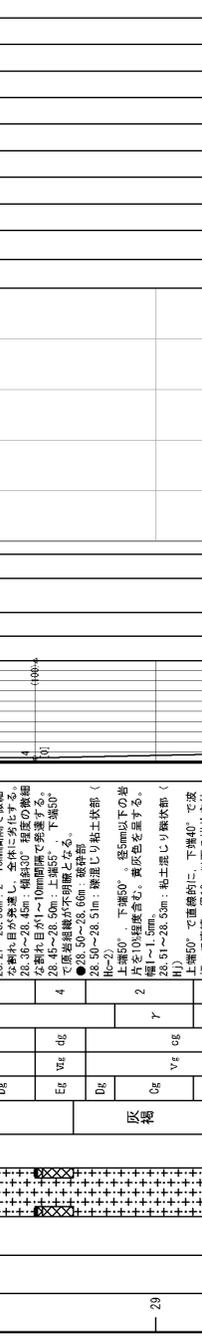
第7.4.4.231図 (2) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	柱状区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (元内不重電)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進日	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (kgf・MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)			
11	-0.80, 11.12	砂礫	砂礫	黄 赤褐 黄	硬					10.70~10.72m: 凝結砂を濃濁状に含む。凝結砂の程度。 11.12~12.04m: 凝結しり砂径2~5mmの石系の角礫を5~10程度含む。砂は珉・凝結砂が主で、少量のシルト分を含む。 11.40~11.42m: 幅10mmの灰白色シルトを挟む。 11.53~11.55m: 幅5mmの灰白色シルトを挟む。 11.66~11.70m: スライム 黄褐色のシルト混じり凝結砂からなる。	100																					
12	-1.18, 11.66 -1.28, 11.79	凝結しり砂 コア混 凝結しり砂	凝結しり砂 コア混 凝結しり砂	灰白	硬					12.04~12.65m: 有機物混じり砂中に中砂を主とし、一部中粒に有機物混じり砂を伴う。有機物は概ね20~30%を占める。 12.15m付近: 有機質シルトの層間を挟む。 12.37~12.41m: 厚さ4cmの有機質シルトを挟む。 12.65~12.66m: 有機質シルトを濃濁状に挟む。 12.69~13.00m: 有機物混じり砂質シルト→中粒砂からなり、全体に有機物が混入する。 12.70~12.73m: 有機質シルトを濃濁状に挟む。 12.76~12.85m: 径2~4mmの花崗斑岩の準角礫を含む。砂混じり粘土で、下部は少なくなる。 13.00m付近まで有機物を多く含むが、下部は少なくなる。 13.09~13.80m: シルト混じり砂。凝結砂を主とする砂に全体にシルトが混入する。 13.69~13.80mは均質な細粒砂からなる。径5~7mmの石英礫を約5%含む。 13.80~16.24m: 砂礫 (径2~40mm (最大径50mm) の準角礫を主とし、準角礫は花崗斑岩の準角礫を伴う。準角礫は花崗斑岩が主体で、準角礫50~70%程度。基質はシルト混じり不均質な砂からなる。半クサリ層と硬質層の割合は同程度である。	100																					
13	-1.91, 12.69 -2.20, 13.09	有機物混じり砂 有機物混じり砂 有機物混じり砂 シルト混じり砂	有機物混じり砂 有機物混じり砂 有機物混じり砂 シルト混じり砂	灰 灰 褐 淡黄	硬 硬 硬 硬	オリーブ黒 灰 褐 淡黄					100																					
14	-2.70, 13.80	砂礫	砂礫	黄	硬						100																					

第7.4.4.231図 (3) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度		コア形状	割れ目の状態	変質	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値) 試験		室内試験	掘進速度 (cm/時)	総進捗 (mm)	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	排水量 (L/分)	
					最大コア長 (cm)	R O D [%]					(N値)	(N値 ~ 深度) 図													
			灰白	Dg	Vg Eg δ	3	20.05~20.20m: 風化、変質作用により全体に軟化する。薄片状にやぶる。コア部分に全長約10cm程度で0.25mmの割れ目が見られる。20.20m前後は割れ目が著しく、崩壊しリソライト状を呈する。下部は硬斜斜“で”下位と推定される。 20.25~20.50m: 風化、変質の影響が強く、割れ目が多い。割れ目が全体に20mm程度あり、中には24~68”で幅5~15mmの灰白色の砂泥じり粘土を数条程度含む。	2	21.00~21.20m: 全体に割れ目が発達し、薄片状を呈する。21.10~21.15mは短柱状を呈する。			2	0												
— 21			明礬灰	Dg	Vg Eg δ	2	21.65~21.74m: 傾斜50”で幅3mmの灰白色粘土層状を呈す。 21.75~22.00m: 径1~3cm程度の塊状を呈する。	γ			4	0													
— 22			明礬灰	Dg	Vg Eg δ	2	22.42~22.65m: 割れ目が多いが発達し、割れ目沿いに劣化する。 22.65~23.71m: 割れ目が多く、径1~30mmの角粒状を呈する。	γ			10	0													
— 23			明礬灰	Dg	Vg Eg δ	2	23.71~23.85m: 長さ3~8cmの短柱状の面状割れ目(加付直の厚6mm)が認められる。23.85~24.48m: 径1~5mmの薄片状を呈する。岩片はやや磨滅であるが、割れ目沿いに径0.2~1cm程度の薄片化が見られる。	γ			4	0													
— 24			明礬灰	Dg	Vg Eg δ	2	24.48~25.80m: 径0.5~3cm程度の塊状~薄片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粉を飛失している。特に、25.30~25.71m間は、径5mm以下のものを飛失している。薄片はやや磨滅で、風化、変質の影響が少ない。	γ			4	0													

第7.4.4.231図 (5) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風変	記	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	() 値 () N () N値~深度 () 図	試験 () 図 () 内不 () 電	室内試験	掘進進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
— 26			花崗岩	新型 標灰	Dg Eg	Vz Vz	δγ	2 3	<p>25.80~26.60m: 土砂~塊状を呈する。岩片は径5~15mm程度のものが多く、25.88~26.12m間は径5~50mmのものを主体とする。基質はシルト理しり中粗砂で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。</p> <p>26.60~27.62m: 5~15mm間隔で礫目状に割れ目が発達し、割れ目沿いは土砂~細片状を呈する。</p>	4 10																				
— 27											Dg Eg	Vz Vz	δ	2 4	<p>27.28~27.62m: 上部に比べて割れ目沿いの基質変化は弱く、径1~3mmの岩片状を呈する。</p> <p>27.62~27.71m: 礫径60~85°の割れ目が1.5~3.5cm間隔で発達する。</p> <p>27.62~27.97m: 細状に割れ目が発達し、コアはやや脆弱となる。</p> <p>27.97~28.21m: 礫径60~85°の割れ目が2.0~4.0cm間隔で発達する。この層から割れ目が75°の割れ目が2cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。</p> <p>28.21~28.50m: 2~10mm間隔で礫目状に割れ目が発達し、全体に劣化する。</p> <p>28.50~28.66m: 礫径50~85°の割れ目が2.0~4.0cm間隔で発達する。下部50°で底層組織が不明瞭となる。</p> <p>28.50~28.66m: 礫径50° (H-2)。</p>	7 30														
— 28																	Dg Eg	Vz Vz	δ	2 4	<p>28.50~28.66m: 礫径50° (H-2)。</p> <p>28.66~28.82m: 礫径50° (H-2)。</p> <p>28.82~29.16m: 礫径50° (H-2)。</p> <p>29.16~29.45m: 礫径50° (H-2)。</p> <p>29.45~29.76m: 礫径50° (H-2)。</p> <p>29.76~29.88m: 礫径50° (H-2)。</p> <p>29.88~30.21m: 礫径50° (H-2)。</p> <p>30.21~30.71m: 礫径50° (H-2)。</p>	4 10								
— 29											Dg Eg	Vz Vz	δ	3 4	<p>29.81~29.97m: マンガン汚染が認められる。0.1~20.71m: 礫径40~55°の割れ目40.2~7cm間隔で発達し、割れ目沿いに底層組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。</p>							9 30								
			Dg Eg	Vz Vz	δ	3 4	<p>29.81~29.97m: マンガン汚染が認められる。0.1~20.71m: 礫径40~55°の割れ目40.2~7cm間隔で発達し、割れ目沿いに底層組織が不明瞭になるところもある。コアは全体に褐色を帯びる。</p>	9 30																						

第7.4.4.231図 (6) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割風	変質	記 事	コア採取率 (%) → 最大コア長 cm → R Q D [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定月日	原位置試験 (孔壁保護) (N 値) 値		(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図		室内試験	給電	回転数 (rpm)	送水水量 (l / 分)	排水水量 (l / 分)				
					Bg VE CG δ 3				30.13m: 傾斜30°で幅1mmの真灰色砂泥じり粘土を基とし、上部側に幅10~15mmの細粒の褐色を帯びた砂を40~50°の割れ目が3~15cm間隔で発達し、割れ目自然に発達色化、酸化汚染が認められる。 30.28~30.44m: 長さ16cmの柱状コアである。10.7m、傾斜40°、粗差の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下位に比べてやや岩質劣化する。	0 50 100	cl'														
	31				Bg VE CG δ 2				31.65~31.92m: 傾斜40°と65°以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯する。	0 50 100															
	32		花崗岩	明礬灰	Bg VE CG δ 2				32.40~32.67m: 傾斜50~60°の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿いに酸化汚染が認められる。一部は岩層構造が不明瞭となる。 32.67m付近、傾斜40~50°の割れ目及び外周側に割れ目が1~3cm間隔で発達し、酸化汚染が認められる。岩質はやや岩質劣化が認められる。若干の層状構造が認められる。 32.91~33.07m: 不規則で割れ目状に割れ目が発達する。 33.07~33.14m: 傾斜50~60°の割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、傾斜45°以上の層状構造も認められる。一部割れ目沿いに細粒状を呈する。	0 50 100															
	33				Bg VE CG δ 2				33.77m: 傾斜50°の割れ目に垂直な細粒の褐色を帯びた砂を40~50°の割れ目に発達させ、酸化汚染が認められる。一部は岩層構造が不明瞭である。	0 50 100															
	34				Bg VE CG δ 2				34.20~34.46m: 割れ目間隔が狭くなく、割れ目沿いに酸化汚染が認められる。一部は岩層構造が不明瞭である。若干の層状構造が認められる。カリ長石は黄褐色を呈する。 34.77m: 傾斜60°で幅5~12mmの層状の褐色を帯びた砂を40~50°の割れ目に発達させ、酸化汚染が認められる。砂を挟む割れ目の周辺層には脈石層が認められる。系統的な割れ目も存在しない。割れ目沿いに岩質劣化する。一部は岩層構造が不明瞭である。若干の層状構造が認められる。カリ長石は黄褐色を呈する。	0 50 100															

第7.4.4.231図 (7) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	風化	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 (N) 値	原位置試験 (孔内水深) 図	室内試験	掘進速度 (cm/分)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
41			花崗岩	暗褐色	Dg	γ 2	γ 2	40.25~40.7m: 軟弱。上部0.7m以下50°で斜交する。石灰質の粗砂~細砂を含む灰白色粘土質砂を呈する。上下位のコアは幅10~20mmでオリブ灰色を呈する。	5 10																		
42			花崗岩	暗褐色	Dg	γ 2	γ 2	41.29~42.13m: 上下位と比べて風化・変質の程度が弱く、コア表面が滑らかである。傾斜30~50°の割れ目・割れ目10cm間隔で変質し、細片~短柱状を呈する。 41.65~41.74m: 割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。	5 10																		
43			花崗岩	暗褐色	Dg	γ 2	γ 2	42.13~42.71m: 風化・変質の影響を呈する。傾斜30~50°の割れ目・割れ目で構成され、原形破壊や割れ目が消滅する。含まれる割れ目定向配列は見られない。 42.37~42.47m: 傾斜は上下傾斜45°の割れ目で構成され、原形破壊や割れ目が消滅する。含まれる割れ目定向配列は見られない。	5 10																		
44			花崗岩	暗褐色	Dg	γ 2	γ 2	43.00~43.53m: 不規則に茶色まで風化・変質が進行し、コアは褐色~オリブ灰色を帯びる。 43.51~43.8m: 強く風化・変質し、一部に長さ「D」の薄片を帯びすが、多くは斜貫入可能である。上部には傾斜50°で幅8~10mmの明赤灰色の砂理シリルトが分布する。 43.81~44.09m: 上位と比べて風化・変質の程度は強いが、傾斜80°以上の割れ目に沿って砂理シリルトは消滅する。コアは脆弱である。 44.09~44.25m: 傾斜15°粗面の割れ目が2~3cm間隔で発達するほか、傾斜80°以上の割れ目が分布し、細片状を呈する。割れ目沿いに多少岩質変化を呈する。薄片は厚薄である。色調は黄褐色である。一部で明褐色の赤・緑間型シリルトを帯び、断面には白雲母が露出する。 44.63~45.20m: 割れ目沿いの風化・変質が進行し、露れ薄片状を呈する。薄片はやや脆弱なものが多く、一部は傾斜で割れるほど軟質となる。	4 10																		

第7.4.4.231図 (9) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位測定	標準貫入試験 (N値)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コア子径 (mm)	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L/分)	送水水圧 (MPa)	排水量 (L/分)				
				花崗岩	褐灰	Cg VE CG Y 2				50.50~51.43m: コア欠如		DL																
— 51	-28.65	50.50		コア欠如																								
— 52	-29.31	51.49		花崗岩	褐灰	Dg VE CG Y				51.43~52.30m: 傾斜55~75°の割れ目が約1.5~30cm間隔で発達する。岩片は名目全粒径以下で散見し、長石類は緑灰色化し、灰色を帯びる。 51.89~51.92m: 傾斜40°で幅7mmの緑灰色シルト・細砂混じり砂を採心。 52.36~52.92m: 傾斜25~50°の割れ目が約1.5~30cm間隔で発達する。 52.50~52.62m: 傾斜20°で幅10~20mmの層状色の緑混じり粘土を採心。 52.92~53.33m: 上段と比べて風化・変質が進み、軟質である。特に52.92~53.13m間は割れ目や節理粗線が不明瞭である。	0 50 100	DL																
— 53				花崗岩	明褐灰	Eg VE CG δ				53.33~53.35m: 上下幅15°程度で幅20~25mmの垂直節理。上部は幅5~15mmの砂・細砂混じり粘土状を呈する。いずれも灰白色で、粘土状部は細目状を呈し、上部は粗目状を呈する。明瞭である。節理粗線は認められない。 53.35~53.82m: 傾斜25°及び45°の割れ目が約5~20cm間隔で交錯し、細片状を呈する。全体に変質し、ほぼ全粒径以下にフィルム状の白色粘土を呈する。割れ目にフィルム状の白色粘土を呈する。傾斜30~50°及び45°の割れ目が約3~5cm間隔で発達する。割れ目沿いの緑化現象は軽微である。	0 50 100	DL																
— 54				花崗岩	褐灰	Dg VE CG Y 2				54.48~55.00m: 上部に比べて割れ目沿いの緑色化が更なる。傾斜は割れ目も発達する。特に55.10~55.17mは微細な割れ目が密着し、亀甲状を呈する。割れ目に沿って風化が進む。	0 50 100	DL																

第7.4.4.231図 (11) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア割れ目形状	風化質	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 [cm] R Q D [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) / 測定日	原位置試験 (完内並書意)	室内試験	掘進月 / 日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)	(標準貫入) 試験				
																								(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)	(N 値)
—56		[柱状図]	柱状凝灰岩	明赤灰	Dg	Vg cg	δ	γ 2	55.40~55.84m: 上下位に比べて風化・変質により、やや軟質となる。長石類はやや硬質の岩片が散見する。長石類は黄灰色、全体として赤色を帯び、細粒の凝灰岩質を呈する。全体にマンガン汚染が認められる。 55.84~56.05m: 上位に比べて風化・変質が著しく、凝灰岩質は黄褐色、凝灰質の割合が増える。凝灰岩質は黄褐色がみられるが、割れ目沿いは褐色化する。 56.05~56.62m: 割れ目沿いの細片化が認められる。	5	0	50	100	50														
—57		[柱状図]	柱状凝灰岩	赤灰	Dg	Vg cg	γ	2	57.42~57.60m: 変質が進み、やや軟質となる。長石類の大半は緑泥石化する。 57.60m: 割れ目沿いに最大幅2mmでマンガンが濃集し、周辺の微細な割れ目もマンガンに汚染される。 57.68~58.00m: 上位に比べて変質は軽微となる。 58.00~58.50m: 上下位に比べて変質は良好である。割れ目沿い及び岩芯の酸化現象はほとんど認められない。 58.50~58.78m: 長石類は褐色結核に濃集し、やや軟質である。凝灰30%程度の割れ目が主体である。 58.78~59.05m: 上位と比べて変質は軽微であり、やや硬質である。 59.05~59.25m: 上下位に比べて変質は軽微である。長石類は緑泥石化する。	4	0	50	100	50														
—58		[柱状図]	柱状凝灰岩	明赤灰	Dg	Vg cg	γ	2	59.55~60.50m: 割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈する。59.90m付近までは、マンガン及び細粒の凝灰物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.60mでは割れ目沿いに褐色化して、緑色凝灰岩質を呈する。全体に割れ目沿いの細片化が認められる。	12	0	50	100	50														
—59		[柱状図]	柱状凝灰岩	赤灰	Dg	Vg cg	δ	3	59.55~60.50m: 割れ目間隔は3cm以下で、微細な割れ目を伴い、亀甲状を呈する。59.90m付近までは、マンガン及び細粒の凝灰物を伴い、酸化汚染は軽微である。60.42~60.60mでは割れ目沿いに褐色化して、緑色凝灰岩質を呈する。全体に割れ目沿いの細片化が認められる。	3	0	50	100	50														

第7.4.4.231図 (12) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-I1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風変	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	() 試験	室内試験 (管内圧縮)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
				花崗岩	赤灰	0g		γ	γ 2		60.65~150.00m : アフライト															
61	35.33	60.65		花崗岩	赤灰	Eg		δ	δ 4	●60.85~61.12m : 破碎部 粘土混じり角砕状部 (H) 上層部 下層部 上層部 硬質・緑灰色を呈す 下層部 硬質・緑灰色を呈す 61.12~63.47m : 緑鉄30~40°及び70°の割れ目と、これらに斜交する微細な割れ目が穿られ、一部集中状を呈する。連綿する割れ目は全く酸化・鉄染みを生じ、褐色化が著しい。岩片は一部で緑鉄化する。	3 (0)	dl														
62				アフライト	褐灰	0g		γ	2																	
63				アフライト	褐灰	Dg		δ		62.97~63.09m : 割れ目が密集し脆弱である。上部には鉄染み45°で幅1~2mmの緑灰色粘土を嵌む。	5 (0)															
64				アフライト	褐灰	0g		γ		63.47~64.15m : 幅5~10cmの割れ目間隔で上位と比べて広い。割れ目沿いに緑鉄化が認められる。	1 (20)															
				アフライト	褐灰	Bg		β		64.15~64.92m : 幅40~50°の割れ目が9~10cm間隔で分布し、これらと平行もしくは斜交する密な割れ目が集まる。密な割れ目は容易には分離しないが、ハンマーの打診でやや硬い面を穿する。上部45°、下部60°程度で集られて美質が進む。	10 (10)															
				アフライト	褐灰	0g		γ	2	64.92~65.70m : 幅30~45°と70°の割れ目が1~5cm間隔で穿通する。底部は割れ目沿いに集まり、白雲母を伴う。																

第7.4.4.231図 (13) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	割れ目形状	風変	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m)	割定月日	原位置試験 (内水電電)	試験	(標準貫入) 図	(N値~深度)	(N値)	空内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアユニットピット	給転数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
					褐灰	Cg Yg	γ 2			65.32m: 傾斜45°でフィルム状~極5mmの灰白色砂泥しり粘土を挟む。 65.32~65.80m: 風化・変質し、軟質化する。割れ目沿いに棕色し凝灰化する。一部に棕色化も見られる。有色鉱物産物も褐色化する。 65.80~66.00m: 全体が棕色し、灰白~淡黄色を呈する。	5 10	CL ++(++)																						
66					明褐灰	Dg Vg Cg	δ 3		65.85m: 傾斜34°で幅1mmの灰白包絡土を挟み、マンガン黒線を伴う。 65.86~66.00m: 不規則に薄層で分離し、がらみ、ハンマーの打撃で分離しやすい。 66.00~66.30m: 傾斜30~50°の割れ目82~15cm間隔で分布し、それ以外交する傾斜65°以上の高角度割れ目が連続する。 66.06~66.81m: 高角度割れ目の多くは密着する。割れ目、密着割れ目のほとんどで棕色化が認められる。	10 10	CL ++(++)																							
67					褐灰	Bg Cg	γ 2		66.85m: 傾斜45°で幅5mmの淡茶褐色軟質化する。 66.90m: 傾斜45°で幅1mmの淡茶褐色砂泥しりシルトを挟む。	10 10	CL ++(++)																							
68					黒灰	Dg Vg Cg	δ 3		67.38~67.51m: 上傾35°、下傾20°で囲まれ、風化・変質を強く受け、圧圧でほくほくするほど軟質である。 67.51~68.20m: 傾斜50~70°の割れ目6~9cm間隔で交差し、断片状を呈する。割れ目沿いに褐色化が認められる。割れ目間に粘土質の塊状物が連続する。割れ目沿いに黒片化する。 68.23~68.33m: 縦目状に変質粘土層が分布する。下端境界は不明瞭である。割れ目は疎る。角礫状を呈する。 68.42~68.60m: 上砂層を呈する。傾斜30~40°の割れ目が連続するが、傾斜が急激に目立たなくなるが、68.48~68.57m: コアはナリープ灰色を帯びる。	9 10	CL ++(++)																							
69					褐灰	Dg Vg Cg	δ 3		68.63~70.00m: 傾斜40~50°程度の割れ目及び薄層割れ目が1~2cm間隔で連続する。割れ目沿いに茶褐色化が認められる。傾斜が急激に目立たなくなるが、68.93~69.00m: 傾斜15~25°の割れ目ハンマーの打撃で分離しやすい。上下位と比べて強く風化・変質し、コアの一部は圧圧で閉せる。 69.18~69.22m: 上傾60°、下傾45°で幅30mmの灰黄褐色のシルトを挟み、69.22~69.27m: 傾斜40~50°程度の割れ目を挟み、69.27~69.40m: 傾斜40~45°で幅0.3~1mmの隙ナリープ灰包絡土を挟み、白層を伴う。	7 10	CL ++(++)																							
									69.96~70.00m: 傾斜75°以上の高角度変質部で同位で岩塊に閉せる。全体にマンガン線を伴う。																									

第7.4.4.231図 (14) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-I トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コアの形状	割れ目の状態	風変質	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	標準貫入 (N) 値	試験 (N値~深度) 図	原位置試験 (内水・電)	室内試験	掘進進度 (cm/時)	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水水量 (L/分)	排水水量 (L/分)
71			アムライト	褐灰	Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg, Dg, Cg	VE, VE, VE, VE, VE, VE, VE, VE, VE, VE	δ, 7, δ, 2, 3	3, 2, 3, 2, 3, 2, 3, 2, 3, 2	70.03~70.33m: 割れ目が多く、それによって割れるための腐食組織は作明分れる。コアの白土質部は一部は溶け、一部は軟質となる。一部は溶け、一部は軟質となる。	3	Qd'		0, 50, 100	0, 10, 20, 30, 40, 50										
	70.33~70.58m: 傾斜40°程度の割れ目が確認し、0.5~4cm間隔で発達する。割れ目が密集するところでは腐食がやや進む。								0															
	70.58~71.05m: 上位と比べて風化・劣化が著しい。割れ目はコア断面により不明、下部は傾斜45°で発達し、崩目状圧で発達するほど軟質化し、崩目状圧が著しく発達するが、腐食組織は認められる。								0															
	71.05~71.32m: コアの表面は粗い。								0															
	71.32~71.79m: 傾斜40°で幅1~2mmの灰~褐灰包み混じりシルトを挟み、白雲母を伴う。								0															
	71.79~72.14m: 傾斜40~60°の割れ目が交差し、一部割片状となる。割れ目沿いに細粒化し、断片・マンガン汚染も認められる。								0															
	72.14~72.30m: 傾斜20~30°の割れ目沿いに腐食劣化する。								0															
	72.30~72.70m: 傾斜80~90°で幅1~2mmの石灰岩を挟む。								0															
	72.70~73.00m: 傾斜50°及び70°以上の腐食劣化割れ目が9~10cm間隔で発達する。								0															
	73.00~73.13m: やや変質し、脱色する。								0															
	73.13~73.53m: 傾斜40°の割れ目は脱色化し、崩目も斑状に褐色化する。	0																						
	73.53~73.74m: 傾斜40°の割れ目が1~5cm間隔で発達し、割れ目沿いに変質する。割れ目沿いはオリブ灰色を呈し、白雲母を伴う。で幅10mm程度の割れ目が確認され、腐食劣化が著しく、全体に軟質化する。	0																						
	73.74~74.95m: 傾斜40~60°の割れ目が2~15cm程度の間隔で発達する。割れ目直はわずかに緑灰色化するが、岩体は新鮮である。	0																						

第7.4.4.231図 (15) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状		風変	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値 ~ 深度) 図		原位置試験 (孔径・長さ)	室内試験	室進月日	掘進速度 (m / 時)	掘径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (l / 分)	排水量 (l / 分)						
							最大コア長 (cm)	R Q D [%]			0	50			100	0											50					
76							IV _E	Bg	明礬灰	75.04~75.04m: 傾斜40°, 及びDCに露度の割れ目状分布する。割れ目及び露度割れ目沿いに岩質劣化し、上下部と比べてやや脆弱である。75.35m: 傾斜35°の割れ目沿いに幅8~20mmの土砂状を呈する。コア採取時に細粒分を一部流失する。	0	100	O1'																			
77								III _E	Bg	明礬灰	76.27m以深は、潜在割れ目が少なくなる。	0	100	O1'																		
78					アライイト			IV _E	Bg	灰白	77.25m: 傾斜40°の割れ目に黄鉄鉱が滲れ出て露出する。 77.81~79.05m: 傾斜40~60°の割れ目状分布する。割れ目の露度割れ目沿いに岩質劣化し、上下部と比べてやや脆弱である。78.25~79.14m: 傾斜20~40°の割れ目状分布する。割れ目の露度割れ目沿いに岩質劣化し、上下部と比べてやや脆弱である。79.14~79.73m: 傾斜40~50°の割れ目沿いに岩色・凝結化が確認。コア採取時に細粒分を流失する。 79.42m: 傾斜20°で幅5~10mmの灰色の石英脈を伴う。	0	100	O1'																		
79								IV _E	Bg	明礬灰	79.73~82.13m: 傾斜40~50°の割れ目沿いに岩色を呈し、白面の一部はオリブ灰色を呈し、白面の一部はオリブ灰色を呈する。	0	100	O1'																		

第7.4.4.231図 (16) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	風割れ目	変質	記	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験		室内試験日	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	観察径 / 孔壁保護	コンピュータソフト	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
													(N値)	(標準貫入 N値~深度)											
81			アフライト	樹灰	IVe	IVe			80.63~81.4m: 傾斜70°以上の基角割れ目が露出する。割れ目面は凹凸し、風化、変質、扶石物は認められない。	8															
									81.25m: 傾斜40°の割れ目に幅1~2mで変質帯が分布する。 81.40~81.70m: 傾斜30~50°の割れ目が交差し、コアは一部細片状を呈する。割れ目面に細片化し、コア81.60m: 傾斜50°で幅2~5mmの石英脈を挟む。	11															
82			アフライト	灰白	IIIe	IVe			81.90m: 傾斜45°で幅1mmの石英脈を挟む。 82.13~83.50m: 上段と比べて割れ目が少ない。傾斜40~50°の割れ目が主である。割れ目面は凹凸し、風化、変質、扶石物の付着が認められる。割れ目及び樹状割れ目沿いに枯色する。 82.33m, 82.38m: 傾斜40°で幅1~2mmの石英脈を挟む。	20															
									82.88~83.03m: 傾斜30~40°の割れ目が露出し、割れ目沿いの一面で細片化する。白雲母、葉状鉱物の付着が認められる。 83.59~83.86m: 傾斜30~50°の割れ目が主である。割れ目面は凹凸し、風化、変質、扶石物の付着が認められる。割れ目及び樹状割れ目沿いに枯色する。上段より割れ目が少なく、傾斜45°の割れ目を主とする。	18															
83			アフライト	樹灰	IVe	IVe			84.16~84.45m: 傾斜70°以上の基角割れ目が認められるが、連続性が悪い。	10															
									84.54m: 傾斜45°の割れ目面に柱状の石英の露出が認められる。 84.83~85.06m: 割れ目が多くなり、割れ目沿いに細片~樹状化する。 84.83m: 傾斜40°の割れ目にフィルム~層の方解石脈を伴う。 84.83~85.06m: 割れ目間隔1~2m程度となり、上下と比べて変質が顕著となる。傾斜50°程度が露出し、灰白色土が割れ目に分布する。	10															
84			アフライト	樹灰	IVe	IVe																			

第7.4.4.231図 (17) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	風変	記	コア採取率 (%) 最大コア長 R O D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(標準貫入) 試験					原位置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップヒット	給圧 (kN / MPa)	回転数 (rpm)	回水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)				
												(N) 値	(N値~深度) 図	(N) 値																	
86		コンクリート	II E	褐灰	CG	VE	CG	3	<p>85.05~89.74m: 傾斜30~40°の割れ目が5~30cm間隔で分布し、長柱状を主体とする。</p> <p>85.14~85.64m: 割れ目面の変質は認められない。</p> <p>85.28m: 傾斜35°で幅1.5mmの石英脈を挟む。</p> <p>85.50~86.32m: 傾斜60~70°の鋭角割れ目が発達し、それに沿って棕色する。一部は開口し、鱗片化を伴う。</p> <p>85.96~87.52m: 傾斜80°以上で発達する割れ目が塊状分布する。割れ目沿いに鱗片化を伴う。86.38~87.00m間は石英脈が分布する。</p>	0 50 100	Q1																				
87		コンクリート	II E	褐灰	Bg	VE	CG	2	<p>87.61m以深: 傾斜40~60°の割れ目が多くある。</p> <p>87.61~88.33m: 傾斜40~60°の割れ目や薄層割れ目が分布し、それらに沿って棕色する。割れ目面はオリブ状を帯びる。</p> <p>87.61m: 傾斜10°の割れ目に黄鉄鉱が偏出する。</p> <p>88.22m: 傾斜43°の割れ目は斜オリブ状を帯び、在家の石英が偏出する。</p> <p>88.22~88.32m: 微細な着色鉱物が多く偏み、コアは棕色を帯びる。</p> <p>88.90~89.09m: 傾斜45°程度の割れ目が0.5~3cm間隔で発達し、一部割れ目面は鱗片化している。コアは棕色を帯びる。</p> <p>89.09m: 89.42m, 89.55m: 傾斜45~50°の割れ目に径0.3~0.5mmの石英が偏出する。割れ目面は緑灰色化する。</p> <p>89.74~90.56m: 傾斜35~65°の割れ目が2~6cm間隔で発達し、コアは一部で鱗片状を呈する。</p>	0 50 100	Q1																				
88		コンクリート	III E	褐灰	Bg	VE	CG	2																							
89		コンクリート	III E	褐灰	III E	VE	CG	2																							

第7.4.4.231図 (18) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア割ア形状	風化	記 事	コア採取率 (%) → 最大コア長 cm → R Q D [%]	岩 級 区 分	孔内水位 (m) 測定日	(N) 値	(標準貫入) 試験 (N 値 ~ 深度) 図	原位試験 (圧縮)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	掘孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ビット	給 圧 (MPa)	回転 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)	
91				アングライト	Bg	Bg	Vz		90.09~90.50m: 傾斜45° 程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 90.44m: 傾斜45° で幅3~8mmの石英脈を挟む。 91.09~91.13m: 細かい割れ目が発達し、変質も認められ、細粒状を呈す。 91.13m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。 91.49~91.53m: 傾斜10~50° の割れ目が多く、主に岩片状~糜状を呈す。 91.53~93.00m: 傾斜85~90° で幅5~10mmの石英脈が連続して分布する。	11 111 9 91																
92				アングライト	Bg	Bg	Vz		92.13m: 傾斜40° の割れ目の一部に黄鉄鉱が晶出する。	16 240																
93				アングライト	Bg	Bg	Vz		93.64m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	6 91																
94				アングライト	Bg	Bg	Vz		94.10~94.63m: 傾斜10~45° 程度の割れ目が多く、岩片状~糜状を呈する。 94.20m: 傾斜45° で幅1~2mmの灰白色の細粒状を呈す。 94.34m: 94.37m: 傾斜40° の割れ目に黄鉄鉱が晶出する。	7 91																

第7.4.4.231図 (19) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア割れ目形状	変質	記	コア採取率 (%) → 最大コア長 cm R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	() 標準貫入 () 試験					室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁係数	コアチップ / ヒット	給圧 (KN/MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)								
													() N 値	() N 値~深度	() 図																			
				アフライト	褐灰	Bg	VE	Bg	95.07~96.00m: 傾斜10~50°の割れ目が多く、岩片状~糜状を呈する。 95.34~95.43m: 細かい割れ目が発達し、糜状を呈する。 95.36m: ほぼ垂直な割れ目に幅1mmの灰白色粘土を挟む。	5 0	DL'																							
96																																		
				アフライト	明褐灰	Bg Bg Bg	VE VEI Bg	Bg	96.35~96.54m: 傾斜45°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。 96.44~96.64m: 96.60~96.97m: 変質が認められ、やや軟質である。 96.54~96.64m: 細かい割れ目が発達し、糜状を呈する。	5 0	DL'																							
97																																		
				アフライト	褐灰	Bg Bg	VE VEI	Bg	97.50~98.00m: 傾斜45~70°の割れ目が多く、岩片状~糜状を呈する。 97.83~97.86m: 細かい割れ目が発達し、糜状を呈する。	1 0	DL'																							
98																																		
				アフライト	明褐灰	Bg Bg	VE VEI	Bg	98.28~100.40m: 不規則な割れ目が多く、岩片~糜状を呈する。 99.61~99.66m: 細かい割れ目が多く、変質が認められ、やや軟質である。	9 0	DL'																							
99																																		

第7.4.4.231図 (20) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	アリの形状	風割	変質	記事	コア採取率 (%)		最大コア長 R Q D [cm]	岩級区分	孔内水位 (m)	測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験					原位置試験 (内米まで)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔底径 (mm)	コアチップ / ヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
										→ (%)	← (%)					0	10	20	30	40											50	
101			明礬灰	Bg	Vg	Bg	2		2	100.40~100.52m: 細かい礫れ目が突出し、土質で、やや軟質で、礫状土砂状を呈する。	7	(100)	CL																			
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
102			アクリイト	Bg	Vg	Bg	2		2	101.47~101.52m: 軟砂部 101.47~101.50m: 粘土質砂状部 (Hb) 礫約25%で連続的に連続。下部に灰色のフィロム状粘土を伴う。径2~5mmの岩片を含む。裏質が硬み、灰白色を呈する。層30cm。 101.50~101.52m: 粘土混じり砂状部 (Hf) 101.52m以下: 礫土主体。灰白~暗褐色を呈する。層20cm。 102.11~103.52m: 径1~3cm程度のカリ長石の大型礫層が目立つ。	8	(100)	CL																			
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
103			暗礬灰	Bg	Vg	Bg	3		3	102.04~103.11m: 細かい礫れ目が突出し、裏質し、礫状~土砂状を呈する。一部灰白色粘土を礫状に含む。 103.11~103.53m: 径0.5~10mm程度の灰色の長石の礫層が目立つ。 103.11~103.33m: 礫約20~60%の礫れ目が多く、礫約5~10%の混在礫れ目が発達する。全体に強く裏質する。	8	(100)	CL																			
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
104			礬灰	Bg	Vg	Bg	2		2	103.02~104.51m: 混在礫れ目も少なく、礫状コアを主とする。 104.44~105.54m: 礫約10~50%の礫れ目が多く、礫片状を呈する。 104.47~104.55m: 径3~10mmの褐色のカリ長石の礫層が目立つ。	11	(100)	CL																			
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					
											8																					
											30																					

第7.4.4.231図 (21) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調軟化質	硬コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 (%)		岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 () 試験		室内試験 () 試験	原位置試験 () 室内試験	室	掘進進捗月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチルト / ヒット	給送圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)					
									最大コア長 R O D [cm]	最小コア長 L [cm]			() 値	() 値																	
106					Bg Vz Bg		2	●05.54~105.61m: 凝砕部シルト産じり砂状部 (H1) に連続的に連続。径30mm以下の岩片を生ずる。灰質が著しく、オリーブ灰色を呈する。105.61~107.12m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、主に岩片状~塊状を呈する。	0	30																					
107				緑灰	Bg Vz Bg		2	106.22~106.34m: 傾斜55°の割れ目が卓越し、割れ目には白色鉱物が晶出し、割れ目周辺に灰質が見られる。106.43~106.49m: 傾斜15°、傾斜50°の割れ目に幅3~6mmの暗緑灰色の粘土質砂を伴う。106.63~106.69m: 傾斜55°の割れ目に灰色砂、細粒産じり粘土を伴う。106.84~106.89m: 傾斜15°のドリフ状の割れ目があり、その中にアフライトの塊状は明瞭である。高角度の割れ目にも露入している。106.78~106.90m: 傾斜50°のドリフトの灰質部で、暗緑灰色の粘土質砂を伴う。106.91~106.96m: 不明形状のドリフト層で、106.83mのドリフト層と高角度割れ目の間隙で連続する。107.11~107.29m: 傾斜45~90°の高角度の割れ目が多く、角縁状を呈する。多角度の割れ目自内に変質が著しく、アフライト質物塊状を呈する。107.33~107.31m: 傾斜55°で幅3~9mmの暗灰色を伴った不連続に狭い灰質が産み、シルト質砂塊状を伴う。107.41~108.11m: 多方向の割れ目が多く、角縁状を呈する。割れ目自内には灰質が産み、シルト質砂塊状を伴う。傾斜55°で幅1~2mmの反白色の片状石層を伴う。108.33~108.16m: 全体に灰質を伴った傾斜55°を呈する。灰岩凝結はやや不明瞭である。	0	30																					
108			アフライト	明緑灰	Bg Vz Bg		3	108.34m: 傾斜50°で幅0~8mmの片状石層を伴う。108.16~109.46m: 凝砕部 (0-1級) 砂帯。109.16~109.18m: 細粒産じり粘土状部 (Hc-2)。明緑灰色を呈する。凝2~傾斜75°。明緑灰色を呈する。凝2~108.18~109.30m: 粘土質凝砕部 (Hb)。傾斜75°で連続的に連続。径2~30mmの塊状部が分布する。灰質が著しく、明緑灰色を呈する。幅60mm上層75°、下層60°。明緑灰色を呈する。幅10~20mm。109.32~109.46m: 粘土産じり凝砕部 (Hf)。上層60°でやや打って、下層60°の粘土を伴う。径2~30mmの塊状部が分布する。明緑灰色を呈する。幅60mm程度。109.46~109.70m: 凝砕部の下層部は灰質を伴う。にぶい褐色を呈する。109.46~112.49m: 傾斜30~50°の割れ目が多く、岩片状~塊状を呈する。109.84m: 傾斜70°で幅1mmの白色粘土を伴う。	0	30																					
109				明緑灰	Bg Vz Bg		4																								

第7.4.4.231図 (22) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-I トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割目状態	風化	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 (N) 値	試験 (N値~深度) 図	原位置試験 (内水圧) 図	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
111			アソルト	暗褐色	Cg	V/E	cg	2	110.12~110.70m: 傾斜20~50°の割れ目が密集し、細粒状を呈する。	5	DL														
									110.00m: 110.85m: 傾斜50°で幅0~10mmの片麻石脈を挟む。	0															
									110.05~111.10m: 変質が著しく、暗緑灰色を呈する。粒状~細粒状コアを呈し、下部に若干なアルム状の白色粘土が縦目状に分布する。	10															
									111.70~111.80m: 傾斜45°程度の割れ目が密集し、細粒状を呈する。一部白色粘土が縦目状に分布する。	15															
									111.80m: 傾斜45°で幅4~6mmの暗灰色砂泥じり粘土を挟む。	20															
									112.20~112.40m: 傾斜40~50°の割れ目が50mm~200mmの間隔で密集し、変質する。	25															
									113.44~113.90m: 傾斜20~50°の割れ目が多く、岩片状~細粒状を呈する。	30															
									113.92~113.82m: 全体に固く変質する。	35															
									113.50m: 113.64m: 傾斜46°、48°の割れ目に幅1mmで黄緑色が呈出する。	40															
									114.42~114.65m: 傾斜75°で幅10~13mmの石英脈を挟む。	45															
114								2	114.66~116.33m: 割れ目が多く、岩片~粒状を呈する。	50															

第7.4.4.231図 (23) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割目の状態	変質	記	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	(N) 値	(N 値 ~ 深度) 図	原位置試験 (孔壁摩耗)	室内試験	掘進進捗 (cm / 日)	掘進速度 (cm / 分)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ / ヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)	
116					Bg					115.24~115.52m: 割れ目が密集し、主に礫状を呈する。 115.04m: 傾斜45°で幅1~2mmの灰色粘土を挟む。	7 40			cl'															
117					Bg					117.00~117.30m: 径5~10mmの褐色の片状を呈する。炭酸塩の長石の礫品が目立つ。 117.37~117.58m: 割れ目が多く、岩片状を呈する。 117.48m: 傾斜45°、幅2~4mmで層状が露出する。緑泥石、方解石を伴う。 117.95~125.10m: 割れ目が多く、岩片状を呈する。	9 40			cl'															
118					Bg					118.85~118.92m: 主に礫状を呈する。 119.32m: 傾斜20°で幅1mmの灰白色粘土を挟む。	7 40			cl'															
119					Bg																								

第7.4.4.231図 (24) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬さ	コア形状	割れ目の状態	風化	記	コア採取率 (%)	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 (N) 値	試験 (N値~深度) 図	原位試験 (孔内水量)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	掘径 (mm) / 孔壁保護	コアチップ/ヒット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
—121						Bg				120.30~122.00m: 傾斜10~40°と60~80°の割れ目が交差し、径1~3cmに岩片化する。 120.50m: 傾斜72°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	4 90																	
—122				アフライト		Bg				121.09~121.50m: 傾斜85~90°の割れ目に幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	4 90																	
—123				アフライト		Bg				122.19~122.40m: 傾斜55~60°の割れ目があり一部軟弱化する。白色化するが、炭質粘土は含まない。 122.82m: 傾斜55°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。割れ目の下端部が幅2cmで長さ10Jに軟弱化する。 122.99m: 傾斜60°で幅0.5mmの淡緑灰色粘土を挟む。	4 90																	
—124						Bg				123.39m: 傾斜70°で幅6~10mmの粘土層より炭質粘土を挟む。100mの傾斜70°の割れ目には幅0.5mm以下の頭上緑色粘土と炭酸塩が堆積する。また、傾斜70°の割れ目とほぼ垂直する幅20mmの岩片状部が分布し、下端側の割れ目部の一部に幅0.5mm以下の暗緑色粘土と若干の真砂層が堆積する。	4 90																	

第7.4.4.231図 (25) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-I1トレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コアの形状	風化状態	変質	記	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定日	試験		室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔塞保護	コアチップ / ビット	給圧 (kN MPa)	回転数 (rpm)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
														(N 値)	(標準貫入 N 値 ~ 深度) 図												
														0													
126				アライイト	褐灰	Vz	Bz	Bg		126.00~126.65m コアは赤味を帯びる。特に、126.00~126.63m間では赤味が強い。	9	QV															
127				アライイト	灰赤	Vz	Bz	Bg		126.27~126.67m・傾斜45°前後の割れ目や低密度割れ目状に褐赤化や赤褐色化部分や厚層状に分布する。粘土付着や粘土崩れは分布しない。	9	QV															
128				アライイト	灰褐	Vz	Bz	Bg		127.50~128.15m・傾斜30~40°と80°の割れ目・ずれ目も約1cm間隔で分布し交差する。径1cm前後の岩片状で、粘土の付着は認められない。	9	QV															
129				アライイト	褐灰	Vz	Bz	Bg		128.50m・傾斜40°で幅1mmの暗緑色粘土を伴い、幅0.5mmの白色・方解石の付着を伴い、径0.1~0.2mmの暗緑色岩片が露出する。径1~2cm程度の石片、長石、カリ長石の斑點が露出する。	9	QV															
										129.00~129.08m・傾斜60~80°と20~30°の割れ目が交差し、径1cm程度に細片化する。	9	QV															
										129.09~129.10m・長さ3~6cmの短柱状に低密度割れ目・割れ目状に分布する。粘土付着や粘土崩れは認められない。	9	QV															

第7.4.4.231図 (26) ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋とD-Iトレンチの間) コア柱状図 (H24-B14-2孔)